細川幽斎と明智光秀、戦国美女たち

たけせい　つるぎ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
細川幽斎と明智光秀、戦国美女たち

【Ｎコード】
Ｎ３６０２Ｍ

【作者名】
たけせい　つるぎ

【あらすじ】
私の所に現れたのは、「光秀を見捨てたんじゃない～ッ！！」と、わんわん泣いて訴える…元・戦国武将「細川幽斎」だった。
しかも、途中から、キャラがどんどん増えてゆく…
＜妄想の＞細川幽斎に振り回された、おマヌケな日々を振り返る、病気のハーフフィクション。
没後４００年記念か、いろんな幽斎氏と、本人も信じてない”歴史奇説”をお楽しみ下さい。

「家康と光秀の小説」書いてたのに

これから書くネタ（小説？）は、実体験に基づいております。んですが、フィクションです。
私は、Ｈ２２年に入り、病院で「統合失調症」との診断を受けました。
その理由の「一部」が、この「おバカ小説」の原型？です。
メインは何故か、４００年以上前の「本能寺の変」関係者周辺ですが、他にも…
腕を六本持つ「仏様」軍団が、そこいらじゅう「徳のありそうな人物」探して、取り憑こうと飛び回ってたり。
偉大なるロッカー　故・キヨ様がコンサート開いてたなあ…最後のほうじゃ。

私の場合、統合失調症「前駆期」は、のどか～なネタが多くて「病気」と気づかなかったんです。
振り回されてましたがね…
この病気特有の「幻覚他（ドーパミン異常放出）」を、私は「笑える心霊現象」と思ってたんです。おトボケでした。

病気の原因は「過度のストレスと不眠」とか。この二つのせいで、ドーパミン出まくっちゃったと。
まあ…異常現象が余りに続く為、備忘録とってたけど、最後は1日4～5ページになってましたしね。
その備忘録も、「急性期（急激な症状悪化時）」に、一枚残らずビリビリに裂きました。
「処分しろ」と、”妄想”に脅された為です。しかも理由不明で「一族郎党滅ぼすぞ」とのお話でした。
最大に症状悪化した際、集団でガンガン来た”命令”で靴をはかず

外出し、ダウンジャケットで、冬の海に入りました。
一時間位色々と”妄想のキャラ達”に責められながら、クラゲと一緒に浮いてたりしたもんです。

ま、ええわ。これが本題じゃないんで。
”妄想の中心人物”に、脳内で、私はこう会話した事があります。
「あなたがメディアで”ミューズ”してるんなら、今回の事も脚色してネタにしたら？面白いかもよ？」
結局、相手が”妄想クン”だった為、オノレで恥さらす事にしました…面白いんかなぁ？？
現実でてきたのまんまは書けぬ故、ＢＬ表現は、出さぬよう努めます。（何故あんな展開だったんだ？）

ちなみに、私は、戦国時代はむしろ苦手です。ゲーム類もしませんし。
あと別に、特にＢＬ好きってワケでもないです。
そして”中心人物”ですが…申し訳ない。ハッキリ「嫌いな方」でした。悪いんですが…
それに、私はこの方と全く無関係です。

あと…やはり偶然ですが、今年２０１０年は、この方の「没後４００年」にあたって…んだよなぁ？１６１０年に亡くなっておられるので。
表面に、ハッキリ”彼”が現れはじめたのは、Ｈ２１年６月でした。
基本フィクションですが。
出した「主役のひとり」のハンドルは、まんま”つるぎ”にさせて戴きます。ある事情ゆえ。
”つるぎ”の由来は、ハチャトゥリアンの「剣の舞」からとりました。
途中の小ネタ自体、妄想じみてるので笑っていただきたいですが、

資料等ある場合は、明記したいと思います。全て半信半疑ですけれどネ。
それではー

～Ｈ２１年５月。
　Ｈ２０年の年末ちかくまで、仕事がハードだった。その中の事だった。
同居中の母が、骨折で入院する事態になった。
母は、年末年始を病院で過ごした。痛々しい。他の家族と、連日、見舞いに行った。
Ｈ２１年１月中旬、退院後、自宅で面倒を見る事になる、他の家族、ヘルパーさんに助けられながら、母の面倒をみた。
　私個人、夜通しつきっきりの世話だ…いや、こんなの、通常の介護／子育てされている方なら「それがなに？」て所と思う。
言い訳させて戴くと、働く身で、この直前まで、かなり忙しい状態が続いていた。
急ぎの仕事→母の入院→年末年始→母の介護＋仕事…と、続いてしもうた感じだった。
　深夜に何度も起きて、諸作業を手伝う。睡眠…休日も外出がままならない。
私なりに、ストレスは溜めていたと思う。

　せめて夜中や休日に「気分転換」したいと切望していた。
だが、私（つるぎ）は、３０代後半にもなる女だ。立派なオバチャンだ。
普通だろう、遊んだり習い事を…も出来そうにない。第一、その前から、休日に人に会えない位疲れきってたし。
なんっかないかなぁ…若い頃なら、マンガとか読んだけど…
「マンガかぁ…室内で、母にメーワクかけずに静かに笑えるしな」
（↑この”笑える”が重要）
小説は、もともと変に偏った趣味の人間だ。ノンフィクションが好

みなため、余りアンテナにひっかからない。
ドラマ・映画もだ。恋愛物×、お涙物×…
ノンフィクじゃ、気分転換どこじゃ…やはりマンガかぁ……

早速翌日、帰宅時のスキ見て、本屋を覗いた。
目当て作品なぞない。余りに最近、マンガから離れていたので…と、ひとつ目をひくタイトルがあった。
へろ～っと見廻り、普段近寄らない「青年マンガ」の棚で止まる。
これ、見覚えある…
ずーいぶんと前、男性雑誌に紹介されていた記事を思い出した。ヘンなタイトル。あれ「1巻（服）」当時じゃないかなぁ？
「へうげもの」ー山田芳裕先生の、有名な歴史マンガだった。

（＊”へうげ”には、全くモンダイも責任もないです。笑える、深い漫画で、今でもファンです。
ただ多分、”へうげ”以外を読んでも、この時から、な～んかしらみんな色々出てきちゃった可能性…高いですね。）

ハマった作品は、繰り返し読む人間だ。小説や漫画は。
「へうげ」、深夜、家を出られない時ー結構、読み返していた。
明智光秀氏が、ビミョーに”革命家”ぽいのも、私が気に入った原因かもしれない。しかも少し少女シュミ（美学？）入ってるし？？

トシを考えての”歴史物”で、予備知識ゼロだったがー実は以前、陶芸を少し習っていた。
イミもわからず、緑の”織部釉”をどばどば、素焼きの器にかけていた。
「うおっ古田左介＝織部！？ヤッタ～！！」てなノリで読んでたレベルだ。

勤務先は、東京某区の、ちっこいデザイン会社だ。帰り道、ご近所のデカい書店をチラと覗いてみた。
「古田織部」本探しだ。マンガの他に、追加情報が欲しくなったのだ。
あった。一冊…相当カタそうなのが（Ｈ２１／５月時点）。買うの止めてしまった。

（＊普通の方なら、織部＝陶芸・茶道で探すでしょうに…ヘンなヤツです。歴史書のほうを探しまわってました。あった事がスゴイ！）

自宅に帰らないと。だが気分転換はしたい…「信長公記」あたりを買おうか？
信長時代の第一級資料と名高いが…どう考えても、かえって暗くなりそうだ。それに、この時本屋に「信長～」が無かった。
「じゃ、光秀さんサイドのでも探そか？」
切り替えに５分ーこの時は本当に、自分の時間が無かった。

翌日、とにかく「母から離れる時間」短縮の為、地元本屋を覗いた。
ここにも「信長～」は無かったが、別の本にあった。この年に出たハードカバーだ。
明智光秀さん御子孫・Ａ様による、有名な「～４２７年目の真実」だ。

（＊この御本も、全く問題ありません。本当に真面目に書かれていて、随分読み返させていただきました。
私が、図々しくも”家康と光秀”で小説書いてみる？”て思ったのは、上記の本の影響と思います。
直に、当時の資料読もう、と思ったのも、”私”自身の筈なんです。
が、ど～も途中から、”やらされてる？”気が随分としてきました

…）

睡眠時間は、平均３時間かな…当時。
夜、眠れず、マンガや資料を読むか、「小説原型」を書いてすごした。
別に登録中（途中で止まってる）の小説”十兵衛さん”が、それである。
大学ノートに、ぼさ～っと落書きしてたのを、詰めたものだ。＜○ＨＫで、非暴力でロボットアニメ＞って？てな話の予定だった。
当時の日本国首相は、かのアニメ好き・麻生太郎氏だった。
”ジャパニメーション”が、世界に広まってる、とマスコミも騒いだ時期…今はそれすら、時代おくれの気がする。

小説、（十兵衛＝明智十兵衛＝光秀氏の別名）、８割がた、書き終わっていた。が、
ここに出す間の「備忘録」（余りにヘンな事ばっか続く為、メモとってた）と、計ノート５冊分。
”海水浴さわぎ”翌日、妄想対象からガンガン脳に”処分命令”が飛んできて、一枚のこらずビリビリに裂いてしまった。

このあたり（Ｈ２１／５月位）じゃ、上記の、おトボケ小説の骨格位は決まっていた。
○ＨＫで、海外向けに”ロボットアニメ”を！しかも”日本の歴史物”として！！（ぜ○まいざむらいで十分かと思うが…）
主役は、徳川家康と、故・明智光秀ーとした。
アホだと思ったが、イメージ作りにイラストを描いてみる。アニメキャラ風（１０～２０代位の）家康と光秀だ。
描くと、ど～も光秀氏、＜娘＞とイメージだぶるのか、肖像画のせいか、中性的になる。あと、ＣＤで「リベラ」を流す事もあった。
実は以前にも、人様のＨＰに、文章？を書かせて戴いてた。

私の場合なぜか、「文章を書く時期」と、「仕事他が、長期で過酷な時期」が重なってるようだ。
ストレスが溜まらんと…ドーパミンが多量に出ないと、私は小説（て程のものか判らん）が書けないのか…??

すこしづつ、「家康と光秀の小説」は、下書きが溜まっていった。つーか、「大村ユ～コ」（”惟任退治記”作者がモデル）っつー、妙な”着物歴女”の話が出来つつあった。
作業は主に、夜11時～午前2時。キツいが、資料（新書、戦国時代のノンフィク本）を読みつつ書いていた。
それだけならまぁフツーか…ただ同時に”奇妙な現象”がでてきた。
「…ジャマされてるみてー…?」
一度なぞ、夜、横たわって「家康と故・光秀のやりとり」考えてるさなか、見えない”なにか”に<肩を蹴られた>感覚すらあったのだ。
あと、2回程、なにか考えてる時、自分と全く違う意見がー音声でない”男の声”で、脳内でツッコミが入ったりした。
私は”誰か、身内の男性の霊?”と思ってしまったのだ。すでに亡い身内と別の人物。
母が、実は、自宅で時折「霊を見た!!」と騒いでいたからだ。
母の発言すべてを肯定してたワケじゃなかったが…

H21／6月
「”私の服”着た男のオバケが出た～ッ!!」と…母が騒いだ。

6月になって、引っ越しをした。元々は、エレベーターのない建物上層に家があった。
私自身は、低い所が苦手。環境が変わるのも大の苦手で、転居はイヤで仕方なかったが…母の身体負担の関係上、仕方ない。
本当に、ご近所さんだったが、かなり急な転居だった。

同じ間取りの家。同じ駅からの通勤。かなり恵まれた事のハズだった。

だが、この「新居」に移ってから、更にミョ～な事が起きた。
「要介護」の母が、その介護ベットの横に「幽霊が出た」と騒ぎだしたのだ。正確には、
「お前の服（白い縄編みセーター）着た、丸顔の若い男が出た～ッ！！」…だった。
わたしに今見える、取り憑いてたと自称する”妄想クン？”も、まぁ丸顔っちゃー丸顔だ…それはいいが。
かーなり、母は怯えていた。
元々、やたら怖がりなクセに、真夏の「怪奇特番」が大好物の母だ。
今の住居の周辺の方々に”調査”は、さすがにしづらい。かといって、７０代の母は本気でビビってる。放置しとく訳にもいくまい。
半信半疑だった、私の「解決策」は、ヘンに消極的なモノだった。
市販の、某宗教家さん出版本付録の「仏様プロマイド」を、母の部屋に貼っただけだった。

「出た～ッ！！」と言われた”若い男のオバケさん”は、その後、現れる事はなかった。
母いわく「自分を心配そうに見下ろしていた」そうだが、一回きりだったようだ。

「気のせいか、本当だとしても実害はなさそうだな」と、ホッとしたー２日後。
今度は私が妙な目に遇った。いや全く、実害はねーのだが。
私の部屋は、隣部屋があり、そちらは暗かったが、ふすまを開けていた。
その暗がりから、なーんか、”流れて”きたのだ。
肉眼で見たそれは、ぼやんとした「白い丸いもの」だった。野球ボ

ール位の大きさかな？
そいつが「へろ～ん」と、私の部屋に流れてきて、消えてった。
　私は、サッパシ訳がわからん。ボサノヴァを流したまま「ー寝よっ」と、まんまフトンに倒れてしまった。

　ずいぶん…半年以上後、思い当たったのは、「オーブ」とかいう現象だ。
死者の魂のエネルギー？時々写真に撮れるっつー…ありゃなに？スカイフィッシュの類似品？
未だに「白い丸いの」がなにか、私にゃ解らない。
ただ、万が一「オーブ」てな心霊現象としてー
ありゃ、フィルムや写真に撮れるモンで、「肉眼で目撃」て話は、私は聞いた事が無い。
　この「オーブ？」も、”統合失調症”の幻覚の一部か。これがハッキリした”始まり”なのかー？
だとしたら、完全な”幻覚”は、これ一度きりと思う。
後はもう「マンガ？」みたいなのが脳内に出るのがメインになるからだ。
「ボーズみたいな若い男」と、彼が甘ったれた時の姿、丸顔の「子ボーズ君」
最初から綺麗な姿だったが、途中から”観音様ヘアー”になっちゃった「若い美形男性」
スイッチが切り替わるように”私自身”まで、マンガキャラ状態で出てくるようになりやがった。
後日、３回位に分けて、登場人物が山程増えていき…どーんどん、メンドーな事になってゆくのである。

細川幽斎、号泣しながら登場

今、ほったらかしのネット小説（すみません、原案なくなっちゃったので）には”作中アニメ”があった。
（キャラは、アニメ用に、１０～２０代に変更してある。）
徳川家康が、故・明智光秀（＝オバケさん）と共に、巨大ロボ”惟任日向守”に乗り、陰で、非暴力の形で世を正そうとする」っつー、脱力系の話だった。
家康自身、役目をやりとげた（＝江戸幕府の安定）頃、死を迎える。その時、それまで付き添ってた故・光秀が、別れを告げる。
家康は、死後”神”になる事で、世を護ると誓い、栃木”日光東照宮”で、光秀を永遠に待とうとする。て感じだったろーか？
ちなみに、教育ＴＶのアニメは「忍たま」しか知らない。
参考までに、深夜の「戦国ゲームアニメ」を、３回程、消音のまま観たりした。

当時のタイムラグなしデータ「多聞院日記」、天正１０年（１５８２年）５～６月の部分だが。
大和の筒井順慶（光秀を見切った組下大名のひとり）に、信長様から直に「東国出陣」が命ぜられた、とある。
当初、”西国”となってたが、後で”東国”となっていた。”多聞院”筆者は、”比類なき名誉”と喜んでおった。しかし”東国”ってさー。
時期は（西国でなく）四国・長宗我部元親を、信長が攻撃しようとしていたのと同時位だ。
当時、すでに武田勝頼は、信長に滅せられていた。”東国”といったら一番に来るのは「徳川家康」でないのか？？

私は「織田信長が”本能寺”で、義弟・徳川家康を殺そうとして

いた」説を支持している。
光秀氏ご子孫様　Ａさまの説・丸呑み、でなく、上記部分を読んだからだ。
政・武のパワーバランスは常に変動する。「武田」亡き後、信長は、”家康もジャマだ”と思ったのでは？とー

あともひとつ…こりゃ、私も半信半疑だがー説明がややこいので後日書くとしてー
後年の”徳川サイド”は、妙に”光秀氏のトシ”にこだわってないか？？
私は、明智光秀氏は（妻・熙子さん側からみると）享年４２～４３歳位とおもうのだが…？
光秀氏、徳川発「当代記」で享年６７歳、作者不明？な「明智軍記」で＜通説の＞享年５５歳、とされている。
”本能寺の変”当時、徳川家康は、数えで４０歳、なのだ。
これで、光秀氏が４２～４３歳となるとー相当、年が近いのだ。同年代といって構わん程に。

てれてれ申し訳ない。本編に戻ろう。
（ロボットはともかく）絵は一応描ける。イメージを作り出してみた。
「〇ＨＫぽく」て理由で、ＢＧＭは、キリスト教の賛美歌みたいな「リベラ」をガンガンに流していた。
（自室がまるで教会みてーになる、ひー！）
こういうしょうもない「息抜き」しつつ、微力ながら、母の介護をやっていた。

ある夜、うとうとしていた。だがシャーペンは動かしとったようだ。
暫くして読み返すとー書いた覚えのない文章が４行程、そこに残っ

ていた。
ま、”あった”ゆーても、筆跡は完全に私んだ。はて？
「白菊丸を先に死なせて生き残った、清玄の心境」ーてな感じの文、４行。
字はたいして崩れてない。私んだ。が、何故、これを書いたか記憶が全くない。
小説下書きの前後シーン、単なる「飲み屋で雑談」場面だったのだ。

「なんじゃ？”白菊丸と清玄”って？？」
悩んだ。しば～らく悩んでた。私はカブキは観たこともない。
やっと思い出したのは、木原敏江さんの漫画だ。「桜姫東文章」の最初の所？
　心中をふみとどまってしまった坊主・自休（清玄）、先に崖から飛び降り死んだ稚児・白菊丸。
のちに高僧となった清玄は、白菊丸の生まれ変わり＝桜姫を、”妄執”に近い形で想い続けるのだが。
４行の「自動書記？」は、こんな調子で終わっている。
「永く待っているが、白菊丸が蘇ってくれない。狂いそうだー」と…

（＊やらされ行動、と表現する方もいる現象があるそうです。”統合失調症”に。それかな？
私はこれを、他の文章と混ぜて”ストーカー？”と、お笑いに持ってった。その”原稿”も今は原型がありません）

　私は”ネタレベル”の知識しかない。の上での意見だが、おトボケ文章の作中ネタでは
「明智光秀は、長宗我部元親と、自分達の親族、および、徳川家康を助ける為に”本能寺の変”を起こした」とした。
（土岐氏ネタ書きたくても、知識がないのだ…）
”本能寺”はそれこそ、山のような＜諸説＞があるし、私は、自分

の説は信じてない。が、”作中アニメ”じゃ
「明智光秀がいなかったら、江戸時代は来なかった」
（家康が、”本能寺”で織田信長に殺されかけたから）としたかったのだ。
だからこそ家康は「光秀のカタキ＝秀吉、亡きあと、その一族を叩きまくった」と考えた。
又、だから「光秀のマゴ＝細川忠利に、一番に”復姓”させ、熊本藩に置いて厚遇した」んでねーかと…忠利の父・祖父そっちのけで。

この時点じゃ「まー気ィ向いたらネットでも…」位にしか考えてなかった。
あくまで「家康&光秀」で、である。
だが、クレームがついた…とんでもねぇ所から。

私は「細川幽斎（藤孝　ｏｒ　長岡兵部大輔）が嫌いだった。
一応「光秀ファン」を自称してたから仕方ないだろう。彼は「組下大名」「身内同然」なのに、光秀氏に協力しなかった。
大村由己・作「惟任退治記」によると、ずいぶん秀吉氏と”お仲良し”なようだし。
漫画「へうげ」の幽斎氏は、クールでカッコ悪くて面白いが、”現物”がファンかっつーと、別の話になる。
似た者同士だが、まーだ「筒井順慶」のが好きだった。
”伊賀攻め”はゆるせんが、「洞ヶ峠」に行こうか、迷っていた。
若い身で大家、彼は「洞ヶ峠」の後、別に、豊臣秀吉に大事にされもせず、２年後、３７歳で亡くなり、子孫断絶してしまった。
豊臣・徳川両者とも、厚遇ヌクヌクだった「細川幽斎／忠興親子」と、天と地ほどにもちがう。
この”差”はナンや？血筋（室町幕府・足利家ゆかり？つーか清和天皇系）？と、なーんかリフジンな気がして仕方ねーのだ。

あと、気になった事があった。
うちの、何故か昔買った本に「細川家家系図」があった。（広瀬隆氏・著／地球のゆくえ）
明智光秀氏の妻（正室）は、妻木熙子さんという。有名な”戦国の健気な妻”だ。
娘さんのおひとりは、明智貞子さんだ（織田信長氏のおい・信澄氏の妻）。
細川幽斎氏末裔で、有名な方がいる。元日本国首相・細川護熙さんだ。
で、元首相のお父様が…お名前、”細川護貞”さんとおっしゃるのだ…単なる偶然？
ただ、広瀬隆氏ご指摘によると、元首相の御一族、「明智光秀&ガラシャ」の”明智さんＤＮＡ”は一切、お持ちでないそうだがー

私が書いた文章内場面＜家康が、日光東照宮で光秀を待つ＞に、”脳内？”からクレームがきた。
剃髪の、ボーズ風にみえる成人男性（ただしマンガ風）が…わ～んわん、凄まじく泣きながら出てきたのだ。
「……？？？」と、私。
「なんで家康で書く！？光秀をず～っと待っているのは私なんだ！！永い間、どれほど苦しんだのか解ってないのかッ！？」
墨色のたもとヒラヒラ、子供みたいに泣きじゃくって、バンバン机（？）を叩き続ける男ー
”坊さんもどき”も、私もー”マンガ姿”だったー
でも、この”ボーズ”は……誰？？？

（＊統合失調症の”陽性反応初期”に、こんなケースがあるそうです。
”誰だかわからん人物が、理由不明に泣きわめいているのが見える
ｏｒ　強く感じる。

私の場合、この＜誰か＞に、→上記の＜細川幽斎氏＞、
＜理由＞に、”本能寺の後、決別したら、山崎の合戦で、明智光秀氏に死なれて”ーと、
勝手に配役しちゃった？と、今では思えるのだがー
ただ、そもそも病気と知らずにいたし、一応”霊現象？”と、ムリに思ってましたね。ただ、現在でも、
”なぜ又、細川幽斎？”てな思いは、強～く残ってしまってます。）

出現した後、私は散っざん、妄想の”細川幽斎氏”をいじめた。
元々あまりー嫌っておった人物のおひとりだったからだ。
「なぜ、ン百年前の人間（オバケ？）が、現代語ベラベラなんだよッ！？」
「豊臣秀吉氏に大事にされたよね～？、”惟任退治記”読んだヨ。”和歌の達人”って大事にされてたんちゃう！？千利休さんみたいに、切腹なんて事もなくさー！」
「の割に、有名な和歌がないね。なんで？光秀さんの”時は今～”は、色んなイミでチョー有名なのにサ」
「こっちは仕事で多忙なの裂いて、小説（？）書いてんだ。ジャマすんな！」

（＊以上、あくまで脳内の会話です。）

しかし、幽斎氏も負けてない。とにかく脳内に出まくってくる。ヒトの質問に返事もせず、更に泣き続け、抗議し続けるー図が脳内に延々続くのだ。
「私は、光秀やガラシャ（玉子）のイメージアップ作戦を何百年とやってきたのだッ！！ー現代語が得意で当然だろう！？」
ご本人？いわく、なんと（明治に入ってからと記憶するが）”細川ガラシャ”の名を広めたのは自分だ～！！とおっしゃる。
更に幽斎氏、

「何年も前から流行ってる”戦国ゲーム類”のプロデュース業にも関わってる。私が会議にこっそり”ミューズ”として参加しておる」とかゆうとる…
光秀氏が”美形キャラ”扱いになった近年の傾向は、自分が陰で「光秀のミリョクをアピールしてるからだ～！！」…とか。
「ドラマや劇にも…フフ、お前はほとんど観ぬな…私が心血注いで、光秀イメージ戦略をしておるというのに！」
「……」
絶句、である。私は、ドラマどころか、小説も、ごく一部しか読めないのだ。
真顔で向き合う、ツルッパゲの坊さん風・２０代位の男　ｖｓ　３０代の中年女（＝私）の”絵”ー
今後、これが連日（急性期に至っては、ひっきりなし）に出てくるのだ。
ただー実はこの後、幽斎氏も私も”絵”のまま、段々と若返っていく。
理由は不明だ。
私が「中年位の人間のマンガ姿」に疲れたせいかもしれない。

この頃、いーろいろと指示が来ていた。
「私の苦しみを理解しろー！あれを読めー、これも読め～ッ！！」
と、だ。
手始めは「信長公記・現代語訳」だった。（これは先に、私自身が選んでたがー）
次が「兼見卿記」…細川藤孝（幽斎）＆明智光秀と特に親しかった、神官さんの日記だ。
古本も無く、仕方なく、図書館で借りてコピーしまくった。
母の体調が落ち着いてきたのを盗み見て、休日返上で。

どーも「私」の読み方は、「細川幽斎氏」好みでないようだ。ポ

イントずれずれのようだ。
更にツッコミを厳しくしただけだった。
「なに？兼見チチの遠出、ダメ～！！、ての（元亀２年１１月）。止めた理由が＜高齢すぎる＞！？、５５歳位でしょチチは！…徳川”当代記”（↑記述が信用できないもの有り、とも）説でいくと、一緒に止めてる”光秀さん”が、兼見チチとほぼ同年齢だよ！ヘンじゃん！！」
「光秀さんたちも晒された”本能寺”跡地で、信長様供養の句会に出てるよね？早い時期に。なのに、亡き光秀さんの＜坂本＞に出向いたのは、４ヶ月たった１０月～！？」
幽斎氏からは、返事も和歌もナシ。ただ「苦しいのを理解しろ～！！」と号泣しておられる。

「＜坂本＞からの日帰りで、チコクした傘持ちクンに”引っ捕えて成敗する～！！”て…暴れたの？完璧、八つ当たりじゃんこれ？４ヶ月もして、なに取り乱してんのさ？兼見クンいなかったら、本当に傘持ちクン殺してなかった？」
（本書上下間中、私の読んだ範囲じゃ、取り乱した”細川幽斎氏”は、ここ一箇所だけとおもうが…）
「光秀は、私の部下で家臣だったんだ！大事な人間だったんだ…信長の腹心なんかじゃなかったんだ～！！（絶叫）」
まーた、さめざめ泣き出す。午前２～３時頃だ。不眠気味の頭にイミ不明である。

フツー、織田信長→明智光秀→細川藤孝＋筒井順慶。
んな感じのシステムになってた気がする。天正１０年初期までは。
天正９年の、悪名高き、信長”伊賀攻め”の時は、筒井クン、直に参戦してたよーだが。
信長氏は（天正１０年５～６月の、東国攻め指令みたいに）直に”筒井クン”に命令する事も多かったのかな？

”光秀は自分の部下で～”は、マチガイではない。
元々、光秀さん、”室町幕府”の人材だった。
タイムラグなしの記録”多聞院日記”にあった。未読だが、フロイスも記述しとるらしい。
「元々、明智光秀は、”細川藤孝に仕えてた身だった”」とー
細川幽斎（藤孝）は、元来、彼が＜室町幕府将軍＞でもおかしくない、セレブな血筋の人物だ。
室町幕府高官を、３代分、なが～くやってきた。最初、その藤孝氏「本人」に、光秀氏が仕えてたのだろう。
だが、下克上ヤンキー・織田信長氏のもと…単に先着順かもしれんが、
光秀氏が先に”織田政権”入りした。後発の藤孝氏は、光秀氏の”部下っぽく”なっちまったのだ。

…それを今更、ン百年たってなんだよ？未練タラタラだなぁ。
「第一、なんか信長氏にヤキモチ焼いて聞こえんだが…だからァ、グジュグジュ泣いても変わらんでしょが」
私は、とっくにパジャマで寝床に埋まり、消灯しとるが…脳内がこんなで、眠れないのだ。
この頃も、仕事がかなり忙しかったのに、連日「坊主との対談」が続いていた。脳内で。
こうして書き出してみると、やはり相当ヘンである。
当時もヘンとは思ってたがー私はあくまで”ン百年前の霊に憑かれた？”と思いこんでいた。
他に、誰ひとり”細川幽斎のキモチをわかれ～ッ！！と執拗に命じてくる人物（？）が、思い当たらなかったのだ。

ある夜ー
やっとこさ、フトンに入った。と、そのフトンの足下あたりー肉眼

では見えない透明な”何か”が光った。
なんつーか…お坊さんの頭頂（原寸大）？
嫌な予感がし、更に両目閉じるとー今度は”絵”で、鮮明に見える光景があった。
フトンの上、丸まってる「細川幽斎」氏だ。
「かわい？」と、何故か自分でほざいとる。追い出されない為の奇策か、ネコの真似でもしとるのかー
心ン中で、私はガバッと起き上がり、”細川幽斎氏”を責めた。
「ど…どこに、ボーズにフトン乗っかられて”かわい？”なんて思うオバハンがおる！？えーかげんにせいッ！！」

（＊統合失調症の原因・悪化要因は”不眠・睡眠不足”があるそうです。
こんなネタで、不眠が悪化した私はナンだったんだ！？と、近頃つくづく情けなくなっております…）

”ＰＣで自動書記”ってアリ！？

私の職種は、デザイン関係ーといってよいのかどうか。
東京都某区の、ビルにはざまの”細～いビル”がある。ツタが結構からんでいる建物の３階が、私の勤め先だ。

うちのデザイン会社…としとこう。近辺の店舗の広告デザイン等を手がけてはいるのだし。
”なんとか生きてます”てな感じの、９名程の小さな会社だ。

その３階の、ツタがスダレ状になってる、薄暗い窓から地上を見ると、ブランド服で武装した老若男女も行き来しておる。（Ｈ２１年の中頃当時）
私は…服は好きだが、ブランドは苦手…以前に、ショートの髪はよく寝癖ついてるし、メイクも苦手だし、散々な状態だ。
「気に入れば、古着でも構わず出社する（↑今ならいらっしゃるかな…）３０代オバハン」と、上品な”下界”との落差に、クラクラする。

前の席で先輩が、「○○ちゃん、銀座にマンションなんか買って、生きていけんのかなぁ」と笑っておる。
と、先輩に、身体を揺すられた。
なんか…意識が遠のいてたらしい。居眠りでなく。
「…眼が一文字だったぞ。今日は残業せず帰ったら？」
先輩の、束ねたロングヘアが視界に入った。
ヒトに言われる感じだと、私のカオは”暗めで年齢不詳気味”、眼は比較的大きいらしいが…「目つきが悪い」そうだ。どうしたものか。
その、悪い目つきのうえに、メガネのせたまま、席を立った。

「早めだけど、弁当買いにいきまひょ」と、先輩をさそった。座った状態だとまた、眼が一文字に戻りそうだった。

残業せず、フツーに帰宅しても…

「私の、光秀への、溢れる思いをネットにのせろ〜！！」などと、ボーズの亡霊（？）がだだをこねる。

四六時中とまではいかないが、なかなか気が休まらない。

母の事も。家事もある。ま、それはフツーだが…

あの「おトボケ小説」…いつのまにやら、下書きが”幽斎氏出まくり”の”あれ”…

ヤツが、”自分好みの関連本”ばかり読ませたがるから、いつしか”幽斎寄り”の話にバケつつあった（涙）。

道一本先の、中華レストランへ、先輩と一緒に向かった。道をひょ〜い、と渡る。

その時点で、少々私はヨレ気味だったらしい。

「二日酔いか？」と聞かれる始末だ。ま、そのレベルの評価なのかな？

「いや、会社のＰＣと相性悪くて…」と答えた。

「早よ、新機種買ってくれんと、ゼッタイ仕事無くなるぜ」と、先輩。

ただ、そう言いつつ、心配かけてるようだ。

今やってる、紳士服店のチラシを終わらせて…さっさと、帰れるだろうか？ほかにも、色々残ってる仕事が浮かんでくる。

先輩に、腕を掴まれた。

電信柱に衝突、という、「ドリフ」並みのなつかしいギャグを披露するところだった。弁当は無事だったが。

結局、まーた残業した…窓から、外部のあかりがチラチラしてる。悪いが、”会社にいるうち”に調べたい事があった。帰ったら、ま

た”オバケさん？”が熱心に訴えてきそうだからだ。
＜明智光秀さん御関係者様＞の、ＨＰが存在するらしい。できれば”オバケさん？”イジメに活用したいと思ったのだ。
（いや、きちんと”勉強目的”もありましたが…自宅まで体力が持たないと思ったもので）
ＰＣ使用料・他は、残業代と相殺してもらおう。

当然な気がするがーこちらの御関係者様は、徳川家康氏には、好意的とお見受けする。
後世、＜ねつ造＞文を発行した（らしい）徳川家といえ、なんとなし、イエヤス君は、”明智光秀さん”に感謝してそうだ。
（そういう御意見、確かにネット上でお見かけする。）
だからこそ、色～んな伝説が、今も（光秀天海伝説、カゴメ伝説、家光名付け説に、春日局とか）あるのだろふ。
＜徳川家康＆細川幽斎＞を、”本能寺の変協力者候補として上げておられるが…
御関係者様、幽斎氏には、なんとなくキビシイ御意見をお持ちな気がする。これも、仕方ない気がする。

詳しくは……と書くと、バレバレですネ。ですが是非、皆様に読んで戴きたいです。

”演出”かもしれないが、「へうげ」でも、”明智光秀に援軍を送ろうとしたが…”と描かれた、徳川家康……

私は、歴史はニガテだ。色んな角度・尺度で見ないと、判断出来ない。
＜本能寺の変＞後の細川家”ガラシャ幽閉”の件に関しても…
？＜逆賊・光秀＞の娘を、世間から隠したい。
？夫・忠興の”愛情”ゆえ、世間の逆風から護りたい。

…正反対のゴイケンがある。政治的な駆け引きもあったろうが、こうなると、判断が難しい。両方正しいって事だってありえるし。

後日、さすがに自宅だったが、「光秀氏御関係者様の掲示板」に失礼ながら、書き込みさせていただいた。
だが…やった本人が、首をひねるネタだった。
自分が予想もしなかったネタ（しかも、非実用）を書きたがる、のだ。
これも”やらされ行動”に該当するようだったら、申し訳ないかぎりだ。

?，９６年発行、朝日新聞社「植物の世界」Ｎｏ，９９。
（表紙は、空色、雪の白、花のカラシ色、タイトルのオレンジ色）
「家紋特集」があり、「明智光秀のものとされる、桔梗紋の裃／ハカマ」現物写真が載っていた。
永青文庫（＝細川家）蔵、となっていた。現代でも大事に保管されていた、という事か？
?現代の、狩野派の方のＨＰを勝手に紹介。
細川、明智両家とゆかりが深い、と、独自の「家系図」を載せておられた。

どっちも「実は明智さん、細川さんととってもナカヨシなんだよ？」と言いたげな、余計なお世話的書き込みと思う。
実は、送信してる自分じしん”なんでまた？”と、悩んでいた。
しかも…お返事を有難く、戴いた。のに、その「お返事」の文字から…
私には、”勝手”に…なにやら＜怒りのオーラ＞みたいなものが”見える”のだ…ＰＣ画面から。（本当に怒っておられるかもしれないが…）

？この時は、あたりさわりない（＝細川ネタでない）書き込みをさせていただいた。
（ただし、何故書き込んでいるかは、本人も不明。）
しかも、「手が勝手に」！動いて、「無記名のまま」送信してしまったのだ！！
「ぎゃ～ッ！！」と、本当に叫んだ程、びっくりした。

「う～む、どうも、光秀（？）の対応が優しくない」
（＊→ちゃんと、丁寧なお返事戴いてます！！出てくる”幽斎氏”は、どうも、”光秀さんの指示で、御関係者様が動いてる”と思ってる、という＜設定＞らしいです。）

「ここはひとつ、”誰だか解らない”形で送ろう。それでも”自分と解ったら”、やはり、彼は”光秀の支配下”だな（？？）」
…こんな形で、計算？しているらしかった。脳内で、私（＝幽斎）VS　御関係者サマ（＝光秀）、と、勝手に話を進めているのだ、私自身は、全く何も考えていないで動いていた。のに。
ただ…本当に、”元・戦国武将のオバケ”が取り憑いてやらされてる”と思ってるほうが、＜理由＞が飲み込みやすかったかもしれない。当時を振り返ると。

（＊→あくまで、統合失調症の症例として、お読み下さいませ）

これとは別の日だったと思うが…同ＨＰを深夜、見てみようと思った時だ。
御関係者様の、御写真が載っている、とあった。御尊顔を知らなかった私は、いそいそ場所を探した。
「…うっ…」
言葉に詰まってしまった。
いや、”御写真”は、全く問題はない。＜上品な方＞が画面に映っ

ていた。
どことなく、”光秀さん”の面影を持っていらっしゃる気がして、個人的に嬉しかった。
そういう問題ではなかった。
　深夜のＰＣ画面の”かたのお顔”が、みるみる”立体的”に見えてきたのだ。
ヘアスタイルも服も、完全に現代風なのに…段々と、顔が若返り、更に、見覚えのある目鼻立ちになってゆくのだ。
しかも、目がにらみ、頬が赤くなって見え…更に又＜怒りのオーラ＞が、画面から、吹き出して見えるのだ。
そう…唯一残るあの「明智光秀肖像画」が、怒っているように…見えたのだ。

　自覚ないまま不眠気味だったらしいがー会社には、休まず通っていた。
ただ、心身ともにヘロヘロだった。
気づけば「オバケ幽斎（？）」に付き合わされて、「ＰＣ開け～！」だの、「小説で、私の言い分を発表しろ～！」だの賑やかだ。ムチャクチャだった。
睡眠時間は、平均４時間…この位の方も、結構いらっしゃるから”不眠”とは思っていなかった。
ただ、”幽斎氏”に（一部、霊の動きやすい、と言われる）「午前４時前後に叩き起こされる」事が多く…やはり疲れは溜まっていたのだろう。

（＊”統合～”の原因のひとつが、＜不眠・睡眠不足＞と、しつこく書いてますが、症状のひとつに＜午前３～４時に起きてしまう、というのは、よくある事だそうです。）

　細川幽斎氏は、「家康なぞに負けない位、自分は光秀を大事に思

ってるも～ん♪」とばかりに、色々と振ってくる。
私に、本を読ませ”ここだ～ッ！！”と、指さしてきたりする。
「日光東照宮が！明智平が！”秀忠と家光”がなんだ～ッ！！」と、ライバル意識むき出しなのだ。
そんな、”他人にゃどーでもええ事”を、と思う私に、一方的・熱烈にアピールしてきた。
「光寿院（＝妻・沼田麝香さん）と、秀林院（＝ヨメ・明智玉子
ｏｒ　細川ガラシャさん）で、”光秀”だー！！」
”本”指し、エヘン！と、胸を張るのだ。人の脳内で。ボーズ姿のオバケさんが。
「……はァ…（ガラシャさんは、モノホン光秀娘だぞ。ヒキョーでねぇ？↑心の声）」と、私。
　この時、幽斎氏が指した”本”は、「細川ガラシャのすべて」（新人物往来社）だ。
私は、この御本、この件よかよほど、「光秀氏正室・妻木熙子さん」の”享年”が気になった。２種、書かれていたのだ。
？天正１０年６月１７日、坂本城で死亡。享年４８歳」
？天正４年６月７日（つまり、本能寺の６年前）、病死。享年３６歳」

　一説に、「大和の、筒井順慶に、次男（４男説も）を預けようとした」説すら聞いた事のある、明智光秀・妻木熙子夫妻。
”本能寺”当時、３６歳くらいでないと…ヒロコさん、享年１０～１１歳位ときく”次男さん”授かるのは、難しくないか？
現代医学のない、４００年以上も昔の話だ。早婚・早期出産が一般的だった時代でもあるし…今と違って。
　それに、＜ヒロコさん病死＞とされる年の”病気”の後、「兼見卿記」の、とうの兼見氏が、ヒロコさんお見舞いに出向いている。
第一、ヒロコさんが”病気”と記されているの、天正４年の”１０月”だ。

更に…「兼見卿記」で、”ヒロコさん妹御”死亡記事があるのに、当の”ヒロコさん死亡”、は、一言もない。
どうとったものだろうか??
なんか、事情があって…”本能寺の年””３６歳死亡”が、隠された?で、わざわざ墓石を別に造った??とか思ったのだがー

光秀・ヒロコご夫妻、＜光秀さんが、６～７年、年上＞と伝わっている。
ヒロコさん＜３６歳＞に、６～７歳足すと…光秀さん、「４２～４３歳」になっちまうのだ。享年が。
明智光秀、通説、享年５５　ｏｒ　６７歳と文献のある人物だ、
私も、半信半疑だがーこれで、もし「享年４３歳」を入れると…「みな、干支は一緒」にならんだろうか?（で、家康氏と年近くならへんか??）
光秀氏、「前半生不明」といわれる。
（タイムラグなし”多聞院”の＜細川藤孝／幽斎に仕えていた＞は、本当だろうが、ず～いぶん後年作の文献＜朝倉仕官・斎藤道三血縁者＞は、疑う必要もありそうだ）
もしかしたら…光秀氏、「そんなに前半生長くなかった（＝若かった）から、前半データが残ってない」可能性はねーだろか…??

オバハンの日常生活をムシして、今日も細川幽斎氏は元気が良かった（私は土日もへたばってた…）。
「ホラ、ここを読め～!!」
指さすは、先日、地元古本屋で買わされた文庫「細川幽斎」（細川護貞氏・著　中公文庫）だった。
読む気も失せる、和歌集のタイトルは、幽斎公の「御教戒の御歌」。
上から目線?で、奉公人たるを延々つづる、６０首以上の和歌…故・米原万里さんなら、ギッタギタに刻みそうだ。
その、和歌の一部で、幽斎氏、さめざめ涙を流すのだ。

「光秀は、陰で、いつもこうしてくれていた。”本能寺”の後、世間の目があり、こんな形でしか心を残せなかった」
オバケ幽斎氏が指したのは、６０首以上の和歌の、ほんの３首だった。

たったひとりの主の心を叶える事は、千人、一万人の気持ちに匹敵する。
主の好む事を、みずから好む事でこそ、幸せが生まれる。
内々の、主の言葉は、大して隠すほどのものでなくとも、漏らすな。

ムチャに訳せば、こんなノリだろうか…？
うちに出てくる細川幽斎氏、織田信長氏（主君）と比べられるのを、えれ～嫌がる。３等身にちぢこまって、手足をバタつかせる。
同い年のハズである。”人間４９年”で幕を閉じた信長氏と、長寿だった幽斎氏、同年生まれでなかったろうか？
光秀氏のトシが、いまいちハッキリせんが。
（通説だと、信長＆幽斎両氏より６歳上…だが、私の説？だと、６歳年下になってしまう…）

「そーいや、幽斎（藤孝）氏、光秀さんとも、安土当時の”一流文化人”で名高いらしいし、和歌、連歌、茶の湯と、趣味が一緒だったんだよな？」
実態は、どっちが”主”かわからんが。通説には”親友”とあるがーま、藤孝氏、＜光秀ったら、主の自分とシュミが一緒なんて、かわい？＞とか、喜んでたのかも知れない……
私は、ネット情報をチラと拝見しただけだが…
幽斎、いや細川藤孝氏、すさまじい勢いで（？）光秀さんの出ておられる茶会他に出席しまくってた、て情報があった。
怪しまれていた。（？？）
すさまじいので（なのか？）一部の方に、、いわゆる「腐女子好

み」的な見方される事もあったようだ。
「逆賊・光秀を見限ったおりこうさん・幽斎」てな世間の評価と”真逆”な＜幽斎像＞をもつ方々もいらっしゃるのだろう。

細川大本営「綿考緝録」を、”疑いなく読む”と、ムスコ忠興が戦場でほめられては泣き、「青しない」で家臣達が出てこうとしては泣いて止め、ムコ・一色義有とは懇意で、明智光秀さんに、「信長様に頼っては？」と（既に信長氏と面識ある時期なのに）勧められとる事になる。
メインの編集時期は、ひ孫（細川光尚）あたりだったから、ひいじいちゃん、会った事もねーのに色々”ねつ造”された可能性が高いのだが…
（私は”綿考～”は未読だが…”よく泣く細川幽斎氏”のイメージは、ここらが震源かも…）

（＊筆者、病院に通うのは、もっと後になります…。）

「”唯ひとり主の心に”…かぁ」
”信長でなく、光秀は自分のだ～！！”と、相変わらず泣き怒る、細川幽斎氏。
「信長サマに、実はすっごく、”恨み”があったワケ？」と思いたくなる騒ぎ方だった。
これもレア意見だろうがー”細川幽斎が、光秀氏のフィクサーだった”説もあるのだし。（私は、一応、この派なのか？）
脳内の”幽斎氏”は、ぐじぐじ泣くだけで、返事がない。色々、思いだしてみた。

？信長氏に、元家臣（幕府じゃ部下）・光秀氏の”下”につけられた。
「…”本能寺”前まで、何年も、仲良く遊んでる（？）からなぁ…

内心はどーなんだろな？次！」
？信長氏、自分の誇る（出自にも、立場にも関わる）室町幕府に、壊滅的打撃を与えた。
「…自分で、足利義昭将軍（異母弟）から離れて、信長サイドに来たんだっけ？弟憎し！のが先だったかもしれんが…ま、怒ってたかもね。次…」
？信長氏、義兄・三淵藤英氏（＋長男君）を、坂本城で切腹させた。
「…他の子、細川家で引き取ったんだっけ…光秀さんとも仲良かった藤英さん…（涙）」

…ま、なんとなく（世間へのアピールは別にして）、信長氏を、潜在的に、恨んでてもおかしくない気がする、幽斎氏。
茶席やなんかで、結構、光秀さんにグチってたりしたのかね？とか、勝手に想像を膨らませられるが。

幽斎氏イトコ・吉田兼見（兼和）氏は、朝廷サイドの人物だ。
「兼見卿記」別本、”光秀謀叛”でちょっと、ハシャイでるよう読めるのは私だけだろうか…？
当時、朝廷の力は弱まっていた。
そこへ、ヤンキー系武将・織田信長が、天皇家をも恐れず（違うご意見もあろうが）君臨しておった。
「てっぺん（＝天守）に住んじゃったり…信長氏、超おぼっちゃま・幽斎（藤孝）氏には、目の上のタンコブ…？」
４００年以上前の実態なんか、私にゃ解らない。
脳内で、ちびっこくなった幽斎氏、「みつひで～ッ！！」とか叫んでるし…イヤになる。

このあたりは、まーだ、”歴史的事実”が関わるので、マシなほうだ。
後に、色々出てくるのは、更にトンチキな説ばかりだ。

本当に”万が一”オバケ幽斎が実在して、これらを<実行>してたっつーなら、
「なに考えとんじゃおめー！？」と一発、どついたろう。
……しかし、「私の脳内のモノで構成された（＝統合失調症の妄想）」と言われても、私は途方に暮れるだけだ。
私は、次に出すネタを忘れていた。第一、ネタが古すぎる！！
何故、インパール作戦だの、東京大空襲だの、原爆開発（そういうノンフィクを読んでいた）が出ず、”これら”が出てきたのだ…？？
今もって、ナゾである。

セー〇ームーンの”原案者”というのか！？細川幽斎！！

Ｈ２１年７月くらいと思う（備忘録やぶいちまって、よく解らない）。
ネット小説「十兵衛さん」の下書きは、マイペースに進んでいた。
へ～んに、「細川幽斎」が出まくるよーになった以外は「当初」のままだった。

こんな話もなんだが、私は大抵、朝風呂に入る
変更するすべはなかったが…（実際は＜私ひとり＞の入浴なのだが…）脳内だと「男女混浴」になってしまうのだ。
へんに若い（でもって現実より長髪気味の）私と、ボーズ風の男が、仲良く浴槽に並んでるのだ。もちろんマンガ風の姿だ。なんとも間抜けな光景だ。
頭の中に、とぼけたボサノヴァ「メディテーション」が流れてるしーこの当時からの、”ヒトに相談出来ない”悩みのひとつだった。
そして、そんな妙な毎日を送りつつ、東京に通って、仕事に追われていた。

自宅だったがー妙な事を思い出していた。
「光秀さん、裃（肩衣）ハカマ」の件である。大したことじゃなかったが。
「朝日新聞社”植物の世界”の、例の号…表紙、鮮やかな空色＋雪、って、明智さんカラーっぽいよなあ」
フッフッフ…と、脳内で（音声でない）”覚えある男の笑い声がーま～たボーズ風・細川幽斎だ。リキが入ってる。
「私は昔から、様々な所で”明智光秀ファン獲得”に力を尽くしてきたのだ！！」
そういって胸を張る。墨色っぽい衣も、剃髪も、私にゃなーんも有

難みが感じられない。今だ”新作和歌”のひとつも出ないし。
第一、向こうも私も”マンガ風姿”で、脳内で会話してる。
私は何故か、「オレンジ色の服」なぞ着させられておるし。
「光秀さんの”宝塚”の劇があるって、聞いたことあるけどー」
「それ所でなく、色々あるが、お前の解る範囲で教えてやろう」
ヅカは、聞いても私は解らんか…つーか、私はゲーム、歴史小説、ドラマ、歌舞伎…どれもペケだ。

「”とんがり帽子のメモル”というアニメは覚えているか？」
……？
「むっか～し、やってた記憶が…（１９８４年）少女向けアニメのクチでしょ？」
じつは大昔、ＴＶアニメがやってた時、絵が綺麗で「流してた」。だが内容が全く思い出せない。
「あの”小人”の宇宙人は、実は、死後の人間の魂を表しているのだ」
「……」
シーンとした。脳内が。
「…話が、お前には高尚すぎたか？」（↑マジメな顔で言いやがった…）
「そんなんじゃなくて…イミがわからない…」
つーか、いつから”私の所”にいる？この、享年７７歳の歴史上の人物は？
「じゃ、こう言うか…あのアニメの主役美少女”マリエル”は、”明智光秀”だ…！」
「ーはァ！？」
「”Ｍ”で始まるだろう名前が！しかも、洋服は白、水色、青、と…”明智カラー”だ！」
「覚えてないよ！子供の頃（だっけ？）の話で、思い出すのもー」
「ちなみに、長髪イジワル美少女”グレイス”は、”Ｇ”ー”細川

ガラシャ”だ。別に、父娘仲が悪いってワケではない。＜美人さんふたり＞というイミだな…フッ♪」
「……（汗）」
「しかも”グレイス”には、”細川カラー”のカラシ色の服を着せていたし」
ナゼに、”本能寺の変・他”と、”美少女アニメ”が同列になんのかもわからんが…
「なにさ？その”細川カラー”って？旗指物、白黒とかじゃなかったっけ！？」
「無礼な！！…そうか本当に知識が無いのだな、気の毒に」
憮然とするボーズ幽斎氏。一応私は”藤孝さん”と呼んでいたが…
…機嫌が悪くなるので…
「金にー黄、カラシ色、オレンジ色のグラデーションが…細川家にとって”神聖な色”なのだ」

こりゃ多分…全くの、私の（脳が勝手にデッチあげた）創作だ。ネットでも随分引っ張ったが、少しも、それっぽい話ひとつ出てこなかった。
どっから来た設定なのやら…家紋に使う”金”はともかくさぁ。
H22年3月迄、悩んで…出した結論はひとつだった。
「マゴの忠利クンが、熊本行ったから…”からしれんこん”（細川家紋／九曜に似てるからウケた・説有り）と、”熊本みかん”？」
本ッ当に！！他になーんも浮かばなかった！！…どなたか宜しかったら、真偽をお教え下さい！！

（＊色についちゃ、ここらへんじゃ”この色が好きー！！位なもので可愛いですが…
＜統合失調症・急性期＞一気に症状が悪化した際は、軽い病状の私でも悲惨でした。
”この色のも、この色の物も触るな””言う事が聞けないのか、何

も食べるな”” 水も飲むな、飢え死ね” というノリでした。
ガンガン集団で、脳にきました。私は、三日間位が一番ひどかったかな？
” ビルから飛び降りろ” というのもありましたが…逆らって、現在があります。）

「ーそれで、これー」
私は、” 脳内” で、自分の髪をつまんだ。
「なにがだ？」と、細川幽斎氏。
「なんか、現実より髪が長い（内巻きボブ風）し、２０代位…？しかも、服がオレンジ色…」
「” カッパー・エンジェル” という、花の写真をずっと飾らせてたのに、自分の使命を理解していなかったのだな。私に気づきもしなかったし」
ゲッ！？と思った…
現実に、職場で” カッパー（＝濃オレンジ）エンジェル” なる花の写真を、机に貼付けていた。形がヘンで面白いので。
「…どこのどいつが、オレンジ＝細川、なんて思うよ…？」（↑相手が元・戦国武将と思ってあげてない）
「…なんだと？」
「” とんがりなんとか” もだよ。どーやったら、女性キャラが、カラシ色ドレス着てるからって、” 細川ガラシャ” のイメージアップにつなげる？” 白と水色” だからって、” 明智光秀” とつなげて考えるヒトなんかいないでしょーが！！」
「フッ」と、不敵に笑う、細川幽斎。不安が倍増した…本当にいつから” うち” におるのだ？
” 戦国の一流文化人・細川幽斎” 。私のとこに来て、” 現代（？）のオタク” に育っちまったのか！？
「私はーハッハッ！” メモル” より凄い、世界的に有名な作品でも、” ラブリー明智光秀” を礼賛しておるのだ！！」

午前2時を過ぎていた。そろそろ気絶したかった…

私は、仕事は休まずいっていた。この不景気、そうそう休める訳もない。

だが、てんてこまいの作業中に時折、ひょいっと”こんなネタ”が入ってくるのだ。ジャマったらありゃしない。

数日後のはーもっとヒドかった。これも夜半だったか。

「お前の友人に、やたら星占いに詳しい者がいたな？」

こんな、ボーズ幽斎氏のひとこと（幻聴？）から始まった。

たしかに、おひとりー”元・旧友”がいた。長年、色々あって、前年に関係断絶してしまったが。

”アセンダントのイミも解らないなんて信じられない！！”てノリの、かなりのマニアな方だった。私は、彼女と”星座の相性”が悪いという理由で、長年イヤミを言われ続けた。自分との相性をみる為、他の人達の星座も調べまくっていた…

「思い出したくない人物なんだけど、なに？」

「私も彼女は嫌いだがー（↑て、いつからおる設定なんじゃ！？）彼女の御実家の近くに、有名な漫画・アニメの原作者がお住まいだったろう？フッ」

「……？」

なんとなーく、聞いた…というか、元旧友がぶーたれてた覚えが……

「その、元オトモダチの、脳内の”西洋占星術”データ持って、御近所の”漫画原作者サマ”の枕元に立ったのだ…いわゆる”ミューズ”だな。フフ、つまり私は”セー〇ームーン”の、原案者のひとりだな♪」

（＊→妄想の産物です！！）

パコッ！と、脳内で、細川幽斎氏をこづいた音が響いた。

”妄想”といえ、清和天皇サマに連なる、良き血統の方の頭は、い

い音がした。
「アホ、スカ、タコ〜！！…どこが”本能寺”と…いや、”光秀さんイメージアップ”と関係があるんじゃあ！？」
幽斎氏のハゲ頭には、いかにもマンガな「ばんそうこう」が張り付いている。
「フフ…そこがシロートの…いや玄人もないか。私は本当に永きにわたり、”メディアを操ってきた”からな…」
「先日よかイミわからんわッ！解説せい！！」
「アニメの”セー○ームーン”は観ていたよなッ！」
「”流してた”！！…料理中とか、たまにＴＶつけてただけだ！当時、一体私が幾つだと思ってるんだ！？」
背を丸め、座りこみ落ち込む坊主風”細川幽斎氏のハゲ頭が光る…”自信作（？）”を、私が観てなかったのが、ショックなのか？
私は”セー○ー戦士”が何人いて、彼女達の”敵”がなんなのか、全く知らんのだぞ！！

気をとりなおして…
「白に、水色、青でコーディネートしている”セー○ームーン”の登場人物がいるんだ。”水野亜美”という、人気キャラだ」
知らん。私は「な○よし」読むトシでなかったし…漫画もアニメも、何年も前に終わってるだろし…
「姓名が逆だが、”あ””み”で始まるだろう…大人しく、生真面目な性格で可愛いぞ。私の光秀そっくりだな♪」
「……？？？」
この時は深夜に帰宅し、自室にいたが…本気で頭を抱えてしまった。
この”細川幽斎”という人物は親友？、マゴもいた戦国武将”明智光秀”氏を、＜美少女＞にしか見てなかったのか〜ッ！？
（＊→あくまで、脳内のドーパミン過剰分泌のせいと思ってやって下さい。私もイミ解らん…）

おまけの偶然だが。
元々の「九曜」、江戸中期以降の「はなれ九曜」とも…細川家の「九曜紋」は元々、天体信仰を表しているそうな（太陽と、いろんな惑星ね）。
だから”星占い”と全く無縁ってワケでもないのだ。ま、大した偶然でないケド。
更に…Ｈ２１年の「Ｃａｓａ　ＢＲＵＴＵＳ」”戦国デザイン編”に載っていた記事だが…
安土・桃山時代、器等に描かれる”絵”は、吉祥等の意味も含んでたりしたそうで…
耳・手足のなが～い”月のウサギの精霊”が描かれている物もあったそうだ。
（志野織部兎文向付／京都市考古資料館・所有）
…数ヶ月後に買ったこの本見て、ずっこけた。
この「器」は、桃山時代の作だそーで…モロに、細川幽斎氏の生きた時代のモノなのだった…ハァ…

「ふ…ん、じゃ（本当と思えんが）”セー○ームーン”は、”光秀チャン礼賛”だけやってたんだね？ほー」
「…そんなワケないだろ…フッ」
嫌な予感がした。幽斎氏、しばし含み笑いしてやがる。腕組みし、頬を指でかいている。
「せめて、もーちょいルックスが良ければ、楽しめたのにのう…」
「なんだよッ！その、さげすんだよーな眼は！？」
「”セー○ームーン”のアニメの頃は、ロングヘアだったろう？」
ゲッ…！！嫌な事を言いそうだ…！！
「近所のデパートで売ってた”オレンジ色のセーラーカラーのスーツ”を買って、着てた筈だが」
「あ…あれは、色が面白かったから、買ってみただけじゃないか…

！！」
当時、黒、白…と、同じよーな色ばかりの服のなか、「緑」「オレンジ」の服があり、気に入って、オレンジのを購入した。カーディガンスーツだった。
黒のふちどりが、前立てまであり…実際に着用すると「ウ◯トラ警備隊のコスプレ」ぽくなる代物だった。
しかも、（当時も）ええトシして”セー◯ームーン”のファンと間違われた。
若き？日の、嫌な思い出のひとつである。

「もっと美しければ…ガラシャの様なら、”セー◯ービーナス”のコスプレになったろうに」
「……悪かったな。美人でなくてよ」
…とゆーか、”細川”オレンジ色のセー◯ー戦士（いたような？）＝細川ガラシャ？？
「と…当時から、私を操ってた…てか？」
「フフ…さあ、どうかな…？（笑）」
また含み笑いしている、細川幽斎氏だった。

（＊当然ですが…現実は違うので、ご安心下さい。当時”オレンジ？珍しー！！”と、服を選んだ覚えがあります。ファンと間違われたのは実話ですが…現在なら、マイブームの”緑”を迷わず選ぶと思いますが…上記はあくまで病気の症状です…）

「以前は、”カラシ色の服”も着ていたろうが。髪をウェーブにして」
それも”グレイスのコスプレ”と言いてぇのか！？一着位、そういう色の服があってもえーだろが！！それとも”自分の導き”とでも！？
「麻色の細身のワンピースとか、好んだ頃で、マイブームだったん

だよ！…そーいや、あのワンピ、無くなったんだよな。なんでか…」
「ああ、”あれ”か。ガラシャにやった。お前より似合うと思って」
……はぁ！？
「”明智さん”と交流無くなっちゃって、＜迷ってた＞んじゃなかったっけ！？」
二ヤ、と笑う、ボーズ風・細川幽斎氏。
「当時、明智家の玄関先（？？）に、置いてきた。服（のオバケ）を包装して、無記名で…フッ♪」

（＊どこまでも、”妄想”ですから…この頃、こーゆー意味不明な脳内現象に日々、苦しめられました…）

新聞記事見て、おびえる日々

Ｈ２１年の秋～冬頃と覚えてるが…
ふたつほど、新聞のＴＶ欄で、引っかかるものがあった。

私は…だいぶ前の”戦国某ゲーム”テレビＣＭで、”白い羽根ヒラヒラ舞い降りてくる、長髪美形キャラ”が”明智光秀”と、何年も気づかなかった人間だ。
その私の目に、「〇ＨＫ朝の連ドラ”つばさ”」の文字が目に入る。
いや、最初は気にしてなかったのだが…
「（初回だけ偶然見たが）、ドラマは、ブラジルがなんかコンセプトみたいだし、別の意味のタイトルだよ」と、思ってた。
ところが…年末に、”総集編”の一部をたまたま見て、”げげ！？”となった…理由は長いので、後日書くとして。

もうひとつは、民放某局「サムライ☆ハイスクール」だった。
「現代ダメダメ高校生が、戦国時代の侍の霊？にのりうつられて…」てな、内容と覚えてる。
通常なら、”やっぱ、歴史ブームだからなー”で済むハズだ。
ところが、私はこの頃、既に”妄想の細川幽斎氏”に怯えて…ないか。泣きわめかれて、ヘトヘトになってて、
「藤孝（＝幽斎）さん、ダメじゃん！！なんで放送局のドラマにちょっかい出すのさ！？」とか、脳内で文句たれていた。
「サムライ～」は、どうしても気になって、最終話だけ観てみた。
「黒髪オカッパ＋アンティーク（風？）着物女性キャラ」がいて…おっかなくなった。
自分の小説の”大村ユ～コ”が、まさにこんな感じだったからだ…
病気といえ、自意識過剰もはなはだしい。

（＊”考想伝播”＝＜自分の考えが、世に広まってしまう、という妄想症状＞の一種でしょうか？単に、私の発想のひねりが足らないだけな気も…）

小説をサイトに載せて戴く前は、私も幽斎氏もボロボロだった。”幽斎氏”は、和歌並みに、切れとリズムのいい文章しか認めない（と、私が勝手に思ってる）。

又、「なかなか、明智さん方への”ラブコール”が実らなくてイライラしている」ように見受けられた。

例のおトボケ小説「十兵衛さん」1～3話まで、一気に入力した。下書きだけで、えっらい長い（↑自分のせいだが）、文章を何度も訂正させられる（↑自分でしてる）。

調査のいるネタも多い。本業だって忙しいのに、睡眠時間削って、必死に訂正・入力した。

何をとち狂ったのか…以前、ブログを書いておられる上司に、”小説、ネットにのせようかと”などど、暴言を吐いてしまっていた。なぜに、自分の首しめる、こんな発言したのやら…これも”やらされ”…てワケないよな。クチが滑ったのかな…

なんとか、1～3話は、アップ出来た。

…で、へたばってしまった…

「やっぱ無理だよ藤孝さん！残業後に、こんなん続けてたら死ぬよ！”明智さんラブコール小説”なら、私じゃなくてもいーじゃんか！！」

この時は、脳内の”幽斎氏”、憮然と、両手組んでおった。

脳内の”私”は…また、妙に若くなって、オレンジのふわふわセーターだか着て、わんわん泣いていた。

「現実の私」は……ＰＣによる疲れ目で、眼がにじんでくる”だけ”だと思っていた。

’小説アップ”の数日後だが…ぶっとんだ。うちはM新聞なのだが…朝、ぺろぺろ新聞めくり（当時はまだ読めたのだ…）中位のページ見て、硬直してしまった。
1ページに、でかでか”十兵衛”と、印刷されておったのだ。
「”柳生十兵衛”ドラマ化記事」とかではなく…著名人による、読書週間の啓蒙記事らしかった。
”十兵衛に力をわけてもらった”的な文面。じつは、全く無関係の、”小説のなかの十兵衛さん”だったのだが。
「藤孝さ～ん！新聞使って、圧力かけるの止めてくれ～！！」
心の中で、悲鳴を上げた…この時は、ドーパミンの為か…本気で怯えてしまっていたのだ。
脳内の、細川幽斎氏、マンガ姿のまま、目ェつり上げて、仁王立ちで、（誰も読んでくれなさそうな話を）
「書け～ッ！！」と、命令してくる……

更に数日後の、M新聞。
今度は、TV欄見て、青くなった。
「ーこれ？」と、脳内で、居座ってる幽斎氏に振ってみた。
「コホン」と、せき払いする、坊さんルックの細川幽斎氏。
新聞の、番組トピックス、○HKの「政治の歴史」的な特別番組を紹介しておった。
カラー写真の、元首相（現・陶芸家）、細川護熙氏の御尊顔がー
「行き詰まっているなら、番組をネタに書いてみろ」と、またコホンとやられた。
「政治ネタ×本能寺、かぁー、シブいなぁ」といいつつ、番組を観てみることにした。

（＊○HKの番組編成は、別に、私も”幽斎氏”も無関係です。当たり前か。しかし、タイミング良すぎました…上記のM新聞の2件

は…
私は失礼にも、元首相そっちのけで、ファンだった元幹事長にかぶりついてた覚えが…）

引っ越しした、現在の家と、前の家は、全く同じ間取りだ（同じ敷地内の建物なのだ）。
がー今の家、午前４時とか、上の住民さんが動かないのに、やたら家鳴りする。
「…ラップ現象じゃないでしょーねぇ！？」と、怯えはじめてしまった。

また、私は「〇ＨＫ特番」の影響か…さらに想像力がひねくれてきてしまった。
「そういえば、元首相、”たったおひとりで”政党（日本新党）立ち上げて、首相になられたんだっけ」と、思い返していた。
当時、”革命”起こしたと…いえなくもない。日本の政界に。
「いくら待っても、白菊…じゃなく、光秀さんが蘇ってくれない…御先祖様（＝幽斎氏）が待ちきれなくて、元首相おひとりで政界入りさせたのかな？」
別の本を思い出し、慌てて探した。
文庫「細川幽斎」だー
”広瀬隆さんの”とは別の、家系図が載っていたハズだ。
…「綿考輯録」の為か、基本、外部では、細川さん家はずっと「逆賊・光秀…」路線できておられる気がするが…
幾度か、雑誌等に出ていらっしゃる方なので、お名前出すのをお許しいただきたい。
「細川さん家、護貞さん→護熙さん→護光さん（陶芸家）？？…ムッチャクチャ、”明智さん”意識されてないか！？」

脳内で急に、今度は悲しげな声（て、音声じゃないのだが）がした。
「護ってやりたかったんだ…」
涙ぐんで、頭を下に垂らした坊主姿の、細川幽斎氏が、頭の中で立ちつくしていた。
お名前は、”米原万里さん理論”（音をふんだりしちゃうとか）の結果かもしれないがー
　私の意見は違うのだがー
「幽斎氏」はどーなんだろ？
異母弟・将軍＝足利義昭氏とは、仲がこじれてっぽかったが、元々は室町幕府の高官…というか、「足利藤孝（↑と広瀬隆さんは書いてもいた）」といってもよい存在、”誇り高き”足利家／幕府をズタズタにした＜存在＞は…許せないのがフツーでないか…？
「”本能寺の変”は…”革命”だった？」と、幽斎氏に振った。
返事は無かった。
「藤孝さんにとっては…幕府の再建とか…”敵討ち”的なものだった？”本能寺”に、参加予定だった？」
やはり黙ったままだ。
”親友”というが…信長政権下でも、どこかで、現実の主従関係は、「藤孝＞光秀」だった可能性もある。細川幽斎（藤孝）氏のセレブな出自を考えると。
光秀さん側が、藤孝氏を、陰で丁重に扱っていたのかも。
「直江兼続宛の書面」だかあったよな？…と思い出してた。
「もしかしたら、元家臣・光秀さんが担ごうとしたのって、”藤孝さん”自身…？」
そんな事ねーか…とも思ったが…細川家に残る、光秀文書だと…”ムスコ細川忠興クン、他に天下を…と取れるものがある…
幽斎氏、マンガ姿（へうげ、じゃないですヨ）のまま、遠～くをみつめたままだ。

　安土時代に「一色義有」という戦国武将がいた…生年、没年とも

に「不明」だそうだ。
が…文庫「細川幽斎」（綿考輯録をもとにされている）には…「細川藤孝の娘ムコ」として出てくるのだ。
さらに、「細川ガラシャのすべて」という本によるとー
藤孝氏娘・伊也さんが（光秀さん仲介の形で）一色義有氏と結婚したが…細川／一色両家は仲が悪く、
一年程で、伊也さん、細川家に連れ戻されたというのだ。幽斎・忠興父子の「一色義有氏殺害」という形で……
ああみえて（？）細川幽斎（藤孝）氏は、戦国武将だった。
本気で、”光秀さんのやった事”に立腹してたら…＜山崎の合戦＞当時、父子で”剃髪”なんかで済ませなかったのではないか…？世渡り上手、というより、＜憎くなくとも”剃髪””中立”しなけりゃならない事態＞が、なにか、あったって事なのだろうか？
その後、秀吉サンに甘やかされちゃうような”なんか”が…

「護ってやれなかった…」
幽斎氏、つぶやいて、またしょげていた。
光秀さんか、ガラシャさん含む”明智さん一族”かー声は（音声はねーのだが）沈んでいた。

”本能寺”から、６０年位して成立したという書物、「当代記」（１６２９～１６４４年）。
著者は、松平忠明氏、というから、筋金入りの”徳川大本営”のハズだ。
この「当代記」で、光秀さんの”トシ”が変、とは、前に書いたが。
（強調するよーに、２度も書いてあるし）

で、「当代記」で、細川幽斎氏、１６１０年・没。
死亡記事がありはしたが、「１０年前からぼけちゃった」的、コメントに困る書き方されていた。

１６１０年の１０年前…というと…「細川ガラシャ死亡」「田辺籠城」そして、「天下分け目の関ヶ原」の年である。
１６００年の後も…幽斎氏、”和歌”を残しておるよーに思うのだが…

この「当代記」と別のベクトルで、故・細川幽斎氏にいちゃもんがきていた。
実の息子（長男／細川ガラシャのダンナ／２代目細川家家主）・細川忠興氏である（当時、７０代後半）。
こういう言葉を、ご覧になった事はないだろうか…？
「自分（＝忠興）が、細川家初代だ。幽斎なるものは三淵家の出でー」で始まる、
「幽斎は、細川家とカンケーない！！」と言わんばかりの、長男坊の冷たーい文章。
いや、きちんと、こちらの細川さん初代は、細川幽斎（藤孝）氏。
忠興氏は”２代目”です。

「幽斎ボケちゃった」当代記と、「うちの初代ちゃう～ッ！！」忠興文書（１６４１年１２月）。
当代記も、ラスト近いこの「１６４１年」は…徳川さんにとって、嬉しい年だったハズだ。
同性愛者とも言われた3代将軍・家光氏の、おそ～い子供（４代／家綱クン）誕生が、８月にあったのだ。

＜家光の世＞当時の徳川・細川御両家にとって…もしかして、”細川幽斎氏”は”関わったと思われたくない人物”だった？？
遠ざけたがっても見えるのだ。
もし”本当に関係ない”なら、な～んも表明しないほうが、悪目立ちしないだろうに。政治と一緒で（て、当時の政治かこれも）。
明智光秀と、（初代）徳川家康が近い（この場合は年齢？）と思

われたくない、と同時に、
細川幽斎と、徳川家康、現・細川家（＝忠興）が近いとも思われたく…なんて事、あるんだろうか？
勝龍寺城籠城の後、殺された光秀さんに口はない。なにも言えやしない。
だがもし、＜明智・細川・徳川＞で、”本能寺・他”の予定だったとしたらー
　やっと念願の”お世継ぎ”の生まれた徳川家にとって…”細川幽斎”はどう、うつってたんだろ？

徳川内部に、春日局（＝斎藤福／光秀重臣・斎藤利三の娘）とその家族を抱え、
細川内部に、ガラシャ（＝明智玉子／光秀娘）と子息達、明智秀満の息子、少也（ガラシャの姪／忠興側室）、井戸良宏（光秀姪ムコ）一族を抱え…それでも，関係ない”のだろうか？？

あとー更にひねくれれば…
＜山崎の合戦＞当時、本当に”勝龍寺城”の所有者は、”バクゼン”としてんのだろふか？確かに、お城＝軍事施設だ。とったりとられたりしてたがー
「永青文庫」の名のモト、”細川７００年の歴史の象徴”ともいう、青龍寺城＝勝龍寺城が…

　脳内の、幽斎氏は、相変わらず、打ちひしがれていた。
「…護ってやれなかった…」と、泣き出してしまっていた。さっきの勢いはどこへやら、だ。
あまりに泣くので、仕方なく、文庫「細川幽斎」の肖像画の所に、会社で勝手にプリントした「明智光秀肖像画」をぴたりと挟んだ。
帰宅して、更に、母に部屋に貼ってた「仏様プロマイド」も挟んだ。
ぴーっちり袋にいれ、よく、お祈りしてみた。

「ふたりが仲直りできますように」と、だ。まるで私は幼稚園児並である（涙）。

ヒトの事は”傘持ちクン”レベルでこき使うがーなんか可哀想になってしまった。

幽斎氏は、何故かエリ元に、黒い生き物（トカゲ？）をはさんでいた。まだ泣いている。

ー協力してやるか（なにを？）と、少しながら考えるようになってしまった。

自分が現在”統合失調症”で、＜架空の霊＞とやりとりしてると思わずに。

万が一、本当としても”どー考えても、明智さんサイドにメーワク”な協力行為と知りながら。

この時点で、「近々”幽斎氏連れ”で（？）光秀さんのお墓参りしよう」と考えていた。私の小説モドキの取材兼ねて。

実態は違うにしても…この時の”幽斎氏”は、私にとって”騒乱霊”状態だった。

「みつひでー！」と叫ぶ、人を茶化して笑かそうとする（たまに）、

「小説書け～！！」と命令する…

なんとかして、穏便に”成仏”して欲しかった。

不審がられつつ、「S教寺」で幽斎氏の供養

私は、戦国武将に詳しくねーのだが…
明智光秀を破って、天下人になった豊臣秀吉と…過去、おなじ戦いに加わった人物が、細川家にいたようだ。
松井康之…細川幽斎の家臣で、室町幕府高官当時から、エピソードに登場する人物だ。ヨメに来たガラシャちゃんの乗った馬の、轡を受け取った男だ。
終生、細川家に仕えた…のに、意外にも、幽斎は、彼を高く評価していなかった。
というか、松井本人が「評価してもらえんかった」とグチってた、と、なんかで読んだ覚えがある。ホンマだろうか？
”松井康之”が、羽柴（豊臣）方に通じてて、細川家が動き、秀吉”中国大返し”が起きた、という説を…
＜御本＞で拝見していて、印象に残っていた。

＜ニセモノ説＞＜書き換え説＞もある、光秀氏の「細川父子への、懇願の手紙」ー
万が一、”あれ”が、一部でも本物なら…あそこまで書かれても、細川家は、幽斎は動けなかった。のかも知れない。
見殺し同然……だろう。援軍（たとえば、家康軍が味方として急遽来る、とか）が無かった（間に合わなかった？）”明智軍”は。
　生き残った者が…出来る事といったら、もう”常に頭を丸めて”、権力者の足下で温存してもらい、
ごく一部、手元に残された”明智の血（井戸さん含む）”を、護る事だけだったのだろうか？
”山崎の合戦”あたりで、”明智方”について戦った、井戸良宏

氏（光秀氏姪ムコ）一派を、
筒井順慶が説得し、停戦させたそうだー彼は。後で、井戸氏を、細川幽斎に預けている。
　その、井戸良宏氏…幽斎”田辺籠城”のおり、幽斎のもと、戦死されている。
田辺城開城のあと…徳川家康は、井戸氏の息子達を、「旗本」にしたそうだ。
そこまで、家康と幽斎は「な〇よし」だったのか？家康から見て”井戸氏”はどう写っておったのだろう…？
なんか、井戸さん以外「氏」が消えましたね。メンドーだからね。
はは…

Ｈ２１年１１月２５日（土）
　この夜は…いや早朝は、午前４時位迄は、”晴れて”いたのだがー今でも、本っ当に、御迷惑と思っているが…光秀さん御関係者様ＨＰに、書き込みをさせていただいた。時間は、午前３時代から。
脳内の”細川幽斎氏”（というよりドーパミン？）に命令された為だ。
「じかに、自分の想いを光秀（↑じゃなくて御関係者様だって！！）にフォ～ユ～♪」てな気持ちだった…ようだ。
午前３時に、脳内から叩き起こされ、ずーっとＰＣ画面で「書き込みの返信」を入力させられた。
（＊本当に申し訳ありませんでした。あれ、完全に”霊界通信”でしたね。平に謝ります！！）
”少し、幽斎氏を茶化しちゃった私”てな文面を…作らされた。
”光秀は幽斎より年下”と言われた、とも…だ。恥ずかしい…
部屋は暗く、ＰＣ画面だけが煌煌とひかる。の横で…”肉眼で見え

ない原寸大ボーズ頭”が、フンフン頷いてるのが”見える”のだ！！
透明なグラスみたいに、輪郭が屈折して見えるというか…なんて説明すりゃええのか？
”脳内”じゃ、しっかと、”マンガ風幽斎氏”がフンフン頷いとるし。
入力中（9割完成時）ーなにか、”嫌な気配”を感じた。
「ー来たな！！」と、となりの（見えない）幽斎氏が、キッと、光る頭を上げた。
急に（これは現実にびっくりしたが…）、静かだった「窓の外」が、ゴロゴロ言い出した。
スゴイ強風、雨、と「嵐」のようになってきたのだ。ほんの2～3分で。
と……PC打つ、私の「右横」から”見えない何か”が、窓の外へ、天へ、
「どぴゅーん！！」…と、すっ飛んでいった……「体感」があったのだ……
1～2分、私は、ぼーぜん、としていた。
「……？？？」
天空では、”ちょっと前”が嘘の様に、台風直撃状態になってた。
木くらい折れそうだった。天で、神様同士がケンカしてる、て位の荒れ方だった。
なんとなく、文庫本にはさんでた「仏様プロマイド」を思い出していた。＜昔年の積もったもの＞を、仏様仲介のもと、光秀さんと言い合ってる？とか想像した。
「（もーろーとしたまま）…とりあえず、書き込みを送って…と」
ポン、と、キーを押した。（↑やらなきゃ良かった！！）時計は、午前4時15分。
「ー寝よっ」
外はーうちの近所じゃ、本当に木が折れていた。
それからしばらくは、私の脳内の”細川幽斎氏”は、姿を消したま

まだった。

この日が土曜日で助かった…あの嵐じゃ、近辺の電車、確実にストップだ。
昼間、ず～っと、天候荒れ通しで、”朝の件”もあり、日中、ボサ～ッとしてたのだ。
夕方、外出…翌日、「光秀さん御一族&ヒロコさん御一族の墓参りだ！取材だ！！S教寺だー！！」てな理由で、岐阜県にゆく切符手配をしに出かけたのだ。
やっと雨の止んだ外は…夕日が綺麗だ。
雲も多く、やたら湿度が高かったが…なにやら、晴れがましかった。
「仏様（＝プロマイドだが…）の仲介で、仲直りできたかな…？」
常識では考えられない思考を、この当時、私はしていた。
「体感」「訴え」が”現実”に自分に降り掛かって感じるため…妙に信心深くも、神秘主義まがいにもなっていた。

H21年11月26日（日曜）
会社の人に「ナニしに行くの？」と聞かれても、マトモに答えられない＜旅行＞だった。
けっこう元気になってきたといえ、長旅のムリな母は置き去り。
第一、理由が説明できない。
「なんか土産買ってくるから～！」と置き手紙残して、午前4時代に家を出た。
この日は、戻ってきてたが「ネット見せろ～」等のワガママを、幽斎氏は言わなかった。
なんやわからんが、終始、脳内でゴキゲンだった。原曲不明の鼻歌歌ったりしていた。

東京駅から、新幹線で京都、乗り換えて、岐阜県「坂本」へ。
フツーの観光なら「世界遺産の延暦寺へ」「やっぱ坂本城跡でしょ」

…全く違う。目的は一ケ所！
「せめて、帰りに京都で降りて、好きな着物見て…」とか夢見てたが…これも不実行に終わった。
母の件もあるが、怖くて、自宅に直帰した。京都駅からすら一歩も出ずに、駅内で「お〇べ」を買いまくった。
人呼んで「S教寺弾丸ツアー」。参加者、私だけですけどネ。

行きも帰りも、脳内のボーズ姿”細川幽斎氏”、嬉しそうに、何度も、ひとつの和歌をそらんじていた。
「つるぎをば　ここに納めよはこさきの～」といふ、実在する、自作の和歌だ。
「い？私のハンドル”つるぎ”って、その”和歌”がモデル？長年、”剣の舞”のつもりでいたケド」
返事ナシ。また嬉しそうに鼻歌うたう幽斎氏は…
昨日までより＜子供＞？…身の丈が縮んで見えた。

行きはバスで（方向オンチで絶対迷うので）、光秀さん達の眠っておられる「S教寺」に伺った。
丁度、紅葉シーズン。お世辞にも観光ではないが、持ってきたデジカメで方々を撮ってまわった。
持ってきたといえばー文庫「細川幽斎」もだ。
実は、S教寺さんで「お炊き上げ」をお願いするつもりだった。幽斎氏をきちんと成仏させてあげたかった。「光秀さん肖像画」と共に。

ショックだった。
「お炊き上げ」は、年一回。普段はやってらっしゃらないそうだった。
すぐにでも「燃やしてほしい」のに…！
「会向（えこう）なら、お受け出来ますが？」と言われ…イミも解らず飛びつ

いてしまった。
でも、”えこう”って、ナンだったんだ?…知識の無い私は、S教寺さんで相当、不審がられた（と思う）。

「まず戒名と、あとお寺がわからないと」と言われ、パニックに陥り、諦めかけた。
ーそうだ、文庫「細川〜」にデータがあるじゃないか！！（↑燃やしにきた事はもう忘れた）
「”大居士”て、おかしいんじゃ…ほんまにこのままでええんどすか？」
「そのままやって下さい。確かにおかしいです」
「泰勝院殿徹宗玄旨大居士…南禅寺さんどすか。宗派ちがいますが、かましまへんか？」
そうか…幽斎氏と光秀さん、宗派違ったんだ…考えた事もなかった。
そのまま、押し通した。ヘンな客だと思われたろう。
ええ年の女がひとり、必死こいてるし。
前の客、団体客…”会向”は、私が一番最後になって（されて？）しまった。
一時間どころじゃない、結構待たされた。レトロな大広間でぽつんとひとり、ストーブに当たっていた。
ヒマで仕方ないのに逃げられない。
「明智光秀公を大河ドラマに！」の署名を書き、（↑私の思う内容のは、えっらいずれてるだろうケド）、そこいらじゅうデジカメで撮影し、最後にゃ、亡父のお線香を選んだりしていた。

周囲に観光客の一杯いる、歴史を感じるきれいな御堂に通された。
尼僧さま、おひとりに、私。
尼僧さまの背後に、伽藍等を拝見できた。私は板間に正座した。
で、ほかの観光客が間に間に、見学されてゆくー尼僧さまの先のほう、高い位置に、ロウソクが2本、燃えていた。

お経が、読み上げられてゆく。（と表現してよいのか？）
細川幽斎氏、明智光秀さんと…いや、周囲の皆さんと、幸せな”あの世ライフ”を送ってくれー
がらにもなく、本気で祈った。こんな事したのは初めてだ。御葬式とかならいざ知らず。

ところがーしばらくして、それどこでなくなってきた。
先程から燃やされているロウソクのうち一本（右側だけ）、３０センチ以上、炎を上げ始めたのだ！
なぜか知らんが、脳内で、”幽斎氏”が喜んでた。
フルサイズで、坊さんルックで両手広げ「ファイヤー！！」と叫んで…る。”光秀さんと同じ寺、同じお経を送られたのが嬉しい”らしい…
尼僧さまも、観光客皆の衆も、だ～れもツッコんでくれない。
私は祈るのも忘れ、「あわわ…」と、焦りまくっていた。
結局、ロウソクは最後まで、高々と燃えていた。内心、火事にならんかとヒヤヒヤしていた…

（＊これはゲンカクでなく、現実に”ファイヤー！！”状態でした。よくある事なのかなぁ？天井から、紙とか落ちたとも…ず～っとですからねえ。
”霊が喜んで、こういう事をする”てな、よくわからん情報も聞いた事ありますが、＜今回の＞がナンなのか、わかりません。）

私は”光秀さん、ヒロコさん、御関係者の菩提寺”てな認識で、S教寺には行ったのだが…
考えてみれば、観光のメダマなんだし、お供え物なんてとんでもなかった。出来る訳なかった。
長岡（＝細川）さん家臣団、というお墓群に、ムリムリに、お酒をお供えしてきたけどー

帰りの新幹線（まだ４時代だった…）のなか。
脳内で、嬉しげに、幽斎氏が笑うなか、私は真っ青になっていた。
「ーあ！ヒロコさんの墓石、確認してくんの忘れた！！」
実は、”私の取材？”は、これがメインだったのだ。パニクってて、全く失念していたのだ。
後で、社内で「お〇べ」を「生モノだから早よ食え～！！」と大量配布する、ナゾかつ恐怖の（↑どこが？）ツアーは終了した。

ちなみに、この日まで、自室のＢＧＭはず～っと「リベラ」一色だった。
まるでサンクチュアリだ。（これが”お経”だったら、更に色々、疑ったと思う…）
後で考えると…
「力貸して～ガラシャちゃん！！　ｂｙ幽斎」てな、脳内ドラマ（伏線）でも勝手に作り上げていたのか？私は？？
翌日から、全く、「リベラ」が聞けなくなった。

仲直り…したの？

Ｈ２１年１１月２７日（月曜…翌日ですネ）
午前３時３０分頃、”家鳴り”がした…”起こされた”と思った。
脳内で、”ボーズ風・細川幽斎氏”が、「早くはやく～ッ！！」と、騒いでる。
何が目的か、なんとな～く見当がついたが、ムシした。
がー脳内で、賑やかにされる。諦めておきあがり、ＰＣ開きー”光秀氏御関係者様ＨＰ”を探した。

２日前の”霊界通信”は、跡形もなかった。
”やっぱりなぁ、申し訳ない、御関係者様！！”
私は、心のなかで、お詫びし続けた。（本当にその節は失礼致しました！！）

少ししたらーなぜか、”自分の”両眼から、ボロボロ涙が落ちてくるのだ。自力じゃ全く止められない。
脳内の”幽斎氏”がー本当に、身も世もなく＜泣いている＞のだ。
心を込めた文（？）を消されて…
ところが、そうされると…”現実の私”が、身体を乗っ取られたように、泣き続けるー

（＊これも、”統合失調症”の症状らしいです。しかしなんで”こんなネタ”だったのやら…）

「仕方ないよ藤孝さん。光秀さんや、その周りの人達、どんな目に遇ったか解ってんでしょ？そんな数日で赦してくれるワケないじゃん。ガラシャさんの件だって、怒ってるかも…」
脳内の、私の言い分である。

基本、慰めてない。「甘いぞ幽斎！！」と思ってる私の対応は、冷淡なハズだ。
で、その時の細川幽斎氏、もう、”泣き崩れる”と言ったらよいのか……
ーところが、数分のち、「ーあれ？」と、泣き止んだ。本当に急だった。

新規の、御関係者様ＨＰの書き込みは「年齢」に関する話題だった。上品で柔らかい文章だ。
それを読んだ、”脳内の幽斎氏”、なにやら、少しずつ、喜び始めていた。
「…？？？」（何度目かの）
どうも、ブレイン細川幽斎氏、「こんな年齢になりましたが、いいんですか？　ｂｙ明智光秀」と、取った…ようだ（↑じゃなくて御関係者様だって！！）。
そんな＜感情＞が、なんかこっちに伝わってくるのだ…すっごい、喜んでるのが。

ーしかし、なにが＜いいんですか？＞なのか、”何故”喜んだのか…３日程して判り…真っ青になった。

２日間は、細川幽斎氏、たま～に、脳内にカオ出すだけで（て事じたいが今思うと問題だったのだが）、特になにもなかった。
私は、「お〇べ」で悩んでいた。明らかに、１２箱は買い過ぎだった。
友人に配っても余り、会社で、お客様の御茶請けにしてもらったりしていた。

どーでもいい話だが、中断中のおトボケ小説”十兵衛さん”には、”大村ユ～コ”というキャラがいるが、彼女は”腐女子”という設

定だ。
わざとそう、キャラ付けした。「意見訂正時」に、二重に説明が入れられる、という理由からだった。
”大村”の、＜対・光秀氏ギセイ者＞は、徳川家康、織田信長、斎藤利三、筒井順慶。そして、細川幽斎（藤孝）だった。
「げげ！！」と、思われよう。あくまで「トンチンカンな意見」として、出してるだけだったが。
……それが、＜今回の病気＞に、悪影響だったのだろうか？
私自身は、別にそんな事考えてた訳じゃないのに……
当時、＜武田信玄が、男にラブレター送った＞だの、＜織田信長と前田利家が、若い頃デキてた＞だの…
割と、戦国時代は「男色も日常的な時代」てな認識くらいはあったのだが…

岐阜・S教寺から逃げ帰った、3日後。
通常通り、バタバタと仕事していたが、合間に、フッと、脳内に「妙な図」が浮かんだりしてた。
デッサンというか、”下書き”っぽいラフな線画なのだがーなまめかし気な男性、に見えるのだ。
脳内で、幽斎氏はなぜか、トロンとしてる。
「……？？？」
仕事の手が止まる。イミが解らなかった。

帰宅して、この時は特に疲れてたので、11時にバタンと就寝した。その10分後くらい。
急に、である。
フトンの中、横になった私の下腹の「上空5センチ位」の所でー何かが「爆発」したよーな衝撃（体感）があったのだ。
ビックリして、跳ね起きた。
「ーな、な、なんじゃいまのッ！？」

この前後、脳内に”細川幽斎氏”はいなかったが…眠れなくなってしまった。

（＊こういふ症状もあるんでしょうか??病院の先生にも言わずじまいです。）

悩みに悩んで、半日……「結論」を出したのは、翌日の昼休みだった。

「…男性機能…?ン百年ぶり?ちがうか…先様お相手に、そんなに”溜まってた”って事……??」

うーん、と、頭を抱えた。

”霊現象?”と悩んでた当時でも…さすがに誰にも相談できなかった。

品のない話で申し訳ない。病状の症例の提示?にでもなればよいが…さすがに”こんな事”は、これきりだった

これ以後、何故か、”細川幽斎氏”はー”明智光秀さん”とセットで出てくるようになった。脳内に。

（小説をＢＬ指定してないので、描写は除くとして。）

”幽斎氏”単独だと、いつもの２０代位、マンガ風、墨衣、ツルッパゲ姿なのだがー

光秀さんのそばだと、”若くて、髪の毛のある姿”で出てくる。見捨てる前の”細川藤孝”でいたがった。

＜永遠の別れ＞が、それだけ幽斎氏に痛手だった（という設定な）のかー?

また、この時点での”明智光秀さん”もー”マンガ風の姿”だった。＜クールビューティーさん＞てな御姿だ。

ただし、本来あったハズの、月代（頭を剃った部分）がない。フツーのロングヘアだ。

どうとったものだろう…?

この日以来、今度は「ボサノヴァ」ばかり聞くようになった。というか、「他がイヤだ！！」と、幽斎氏がハネてしまう。
「リベラ」も…「それ迄の、辛い時期を思い出すから、かけるな！」だそうだ。
かと思うと、近所のコンビニで、たまたま流れてたラブソング（！）。
「今の気分～♪」と聞き入って、店舗から出たがらなくなった。
後日、今度は１００円ショップにいた時、この時もラブソングに反応したが、異様な食いつきかただった。
冗談ヌキで、「自分の左耳だけ、１，２ミリ伸びた？」ような感覚が出たのだ。
「もっと良く聞きたい」という反応だったらしい……

後々出てくる、幽斎&光秀両氏の、＜女性のご家族＞は、当時の服装の方が大半だった。
ところが、徳川家康氏、斎藤利三氏、明智秀満氏…と、男性諸氏。大半が、「現代風ショートヘア、ラフな洋装、スーツ姿。他」なのだ。しかもそれで勝手に私が、見分けがつく。
織田信長氏はー当時の茶筅マゲ、具足姿で出てきたが、その上にスカートをはいてくれたりした。
長宗我部元親氏の場合、ロングヘアだった。それで具足、黒T、黒皮ライダースーツと、多彩だった。
ヘンな妄想である…つくづく。

「頼むから服を着てくれ！光秀さんだって気の毒だぞ！なんで全裸で出てくるんだよッ！？」
主にこれは自宅だったが…会社でも時折、脳に画像が飛び込んでくるのだ。とまどった（当然か）。
もう、”髪の毛１本たりとも手放したくない　ｂｙ幽斎”という事

らしいが…
それが、あらぬ方向に行ってしまったようだ。
2週間くらい、続いたろうか…絵で助かったが…一方的にもみえる色っぽいシーンを見せつけられていた。
明らかに（蕗谷虹児的クールビューティーに見える）光秀さんは、ひっつかれて困ってっぽかった。
”家族ぐるみ”に近くなった、翌H22年1月頃には、だーいぶ安心したのか、”納まって”きたが…
それまでは”寒そうだし、せめて光秀さんだけでも”と、脳内で、＜白いフワフワの毛布＞をむこうに投げたりしていた。
脳のなかで、だが。

翌H22年4月20日から…東京国立美術館で、「細川家の至宝」展が始まり、伺ってみた。
（細川幽斎没後400年…でなく、”永青文庫60周年、という企画だそうだが）
2月中旬から、統合失調症の治療を始めた身でー
初めて、本物の”細川幽斎肖像画”をみた。没後、3年後に描かれたものだそうだ。
展覧会は、ずっとガイダンスを聞いていたためか、子ボーズ・幽斎氏（近頃はほとんど、ちびっこい姿だ）は余り出てこなかった。
天目茶碗を、飲み干すフリして「入ってなーい！」とか、はしゃいでくれはしたのだが。

最近、活字が少しずつ読める（＝回復しつつある）ようになって、買った新書がある。「武士道とエロス」（氏家幹人氏・著）だ。
「な～んでこんな内容の妄想だったんだ！？私のなんか思い込み…？」と悩んで、参考までに買ったのだが。
読み終えて、更に不安になった。
戦国時代に、随分「男色」が流行ってたのは、「信長公記」でもか

なり出てくるので、承知はしてたが。

話は飛ぶが、織田信長氏自身は、珍しい意見だろうが、私は「後年はシロ」と思っている。
将軍・足利義昭氏（つまり幽斎氏の異母弟）の男色ネタを、イヤミに（？）「十七条」に書き記したり。
どこぞか地域へのおふれに「寵童（男色）」の禁止を盛り込んだり
ーこれで「男色家」だったらヘンだと思う。
反面、「武士道と～」には、”明智光秀の小姓・明智左馬介（秀満）”と出てたり。（娘ムコなんだが…）
江戸時代の、男同士の”茶室の恋”なる絵が載っていたり。
石田三成&大谷刑部少輔まで、「疑われてた」実例が示されていたり。
戦国武将（敵）同士の恋、なんて実例まで載っていた…段々、”私の見た妄想”が、笑えなくなってきたのだ。
私の場合は、あくまで「ドーパミン過剰分泌」のせいと信じている。が、今…
「主従（関係）」「（戦国時代の）親友」という文字を見たくない。”ありえるかも…”と、疑ってかかりそうだからだ。

２０１０年、細川幽斎・没後４００年…と無関係に、ある「歌舞伎」が、長年の封印を解いて上演されたそうだ。
「大川友右衛門&印南数馬」というカップルの出る…「染模様恩受御書（細川の血達磨伝説）」という…同性愛の歌舞伎だ。
重要な舞台のひとつが「細川邸」と、「武士道と～」にも記されていた。
管領細川家（つまり幽斎氏よか前）にも、同家か足利家で、同性愛の方がいた、と文献を見た記憶があるし。
多分、当時はフツーの事だったんだよ…と考えて、最近、自分を慰めている。

これは、あくまで「私の闘病記（どこが？）」「面白い＜架空の＞細川幽斎氏が見られた」報告でしかない。

Ｈ２１年１１月３０日…くらいだったと思うが。

異様な程、脳内の幽斎氏は、ゴキゲンだった。

なんかもう、頭の中で”なじみ”になってしまっていた。

「ふーん…なんか、気分の盛り上がる曲でもかけてあげよか？（光秀さんにゃ悪い気がしたが）」と伝え、ＣＤを買ってきた。

この時は、平井堅さんだったかな。なんとなく。

帰宅して、ＣＤかけてたらー涙が止まらなくなってしまった。しかも”現実”に、私の手足が硬直しだした。

脳内の”幽斎氏”が、パニックを起こしてしまったのだ。

たまたま聞いた曲が「今、ラブラブだけど、あなたがいなくなる事を考えると辛い」という、歌詞だったのだ。

「光秀と、又、別れ別れになるかも…今度は、二度と会えなくなるかも…」と考えた、らしい。

口が開いたまま、固まってしまった。動悸もヘンだった。私までパニック起こしかけた。

＜光秀さんと仲直り以前＞よか、症状が悪化してしまったのだ。＜救急車を呼ぼう＞と思った位だ。

だが……どー説明するんじゃ？

”私に取り憑いたオバケさんがパニックしてー”と？？

だぼ～っ、と、涙流す”自分の頭”を、やっとこさ動かせた手で、撫でつづけた。

「大丈夫だから。別れ別れになんか、なんないよ…」

そう、幽斎氏を慰めていた。それはそれは、人様には見せられない姿だった。

これを、１０分以上やっていた……家人に見られず、今でもホッと

している。
もっとも…ここで「発見」されてたら、この時点から「治療」し始めた可能性が高いが……
脳内の幽斎氏は、グズグズと泣き続けていた。一体、どうしたものか、と、途方に暮れてしまった。

翌日、ボロボロの体で、私は通勤電車に揺られていた。
心配なので（？）、文庫「細川幽斎」に、「光秀さん肖像画」「仏様プロマイド」をはさんで、出社した。

＜架空の＞細川幽斎氏の不安がピークに達したのは、この後位と思う。架空なんだけどネ。

ガッちゃん＝細川ガラシャ、登場！

「ＢＬ指定」していないので、詳しくは書か…書く技量もねーが。
どうも、細川幽斎氏、自信総崩れだったようだ。
男性同士で、エデンの園のよーな光景はつれーが…ずっと、そのまーんま、なのだ…。
仕事中でも、時折フッと”画像”が飛び込んきてギョッとする。
（絵といえ）幽斎氏（髪のある、若い姿）が、えんえん、だな…
ず～っと、光秀さんをかかえているのだ。

時折、”背景”が変わる。なんか、朝日の出る岩場とか。
真っ暗な、ジゴクみてーな所だなー、と思ってると、＜青い不動明王様の足下＞だったり。
かと思うと、屋久島顔負けの深い森の、木の上（なぜ又？）だったり。

幽斎氏、なんでか、一度だけ、髪にウェーブがかかり、ラフな洋装。光秀さんにメガネをかけてもらってる。
「冬〇ナ」の、ペ・ヨンジュン氏のコスプレらしいが…その姿で、光秀さんの膝枕で、のびきっていた。
「冬〇ナ」どころか、日本のドラマも殆ど観ない私には、理解不能なギャグだった。

光秀さんは光秀さんで…何故か知らんが、２度程、女性の体（？？？）になっていた。
事情がさっぱり解らんが、また、男性に戻ったりしていた。
幽斎氏の悩みの一部が、”光秀が女性だったら良かったのに！”てのがあった（という設定）なのか？
しかも、しばらくしたらー

光秀さん（と書いてるが、２０代女性の漫画のキャラっぽい姿）の、ヘアスタイルが変わってきた。
丁度「観音様」風に、ロングの髪を頭頂たかく束ねだしたのだ。その髪を長く垂れさせていた。少し悲しげに微笑んでもいた。
で、なぜか扇情的？に、ピンクのベールをまとってるし。
その姿で、淡々と、苦行でもこなすように、ずっと幽斎氏にしがみつかれていた。
こんなのが、２日続いた。なぜかこっちもヘトヘトだった。

これは、午後の仕事のさなかだったろうかー？、夕方頃か。
急に、それまで深刻だった”細川幽斎”氏の表情がゆるみー急に笑顔になった。
「…光秀はそのまんまでい～んだよ～！！」と、絶叫した。
ぎゅむ～っと、光秀さんをハグする幽斎氏…なーんかが、ふっきれたのか、て感じだった。

この日以来、やっと！！ふたりとも、”服着て”現れるようになった。なぜか洋服だったがー
んーまぁ、上記の件で思い出したのは、ハングルの”ハンプリ”という言葉だろか？使い方間違ってたらすみません。
立場、逆じゃないんか？とも思ったがー
幽斎氏の「失ってしまった。戻りたい」というのを、光秀さんが、「ほどいてあげた」ような…
光秀さんのほうが、山程クレームがあろうに、そういう場面は結局、出てこなかった。

Ｈ２１年１２月４日
仕事で、東京都中央区の「鉄砲洲神社」の近辺に出向き…脳内の”幽斎氏”に、神社で”お祈り”させられた。
これには、光秀さんがクレームつけた。「恥ずかしいから止めてく

れ」と、真っ赤になって泣いてらした。
嬉しそうに、髪のある幽斎氏が、「よしよし」と、光秀さんの頭を撫でていたが。
”鉄砲洲細川”…というか、”熊本新田藩”のあった地域である。ここは。
その御近所の神社で、「細川さんと明智さんが、永遠に仲良くいられますように」と…またも幼稚園児並みのお願いさせられた。
帰りに、そばの公園で…丁度、見頃だった銀杏の木を、デジカメで撮った。
あとで見て、”細川カラー？”とも思った。アップの銀杏は、カラシ色にも、金色にも見えた。
”真っ暗ななかから、今は光の中にいます。光が手に入りました”…という、幽斎氏の”感情？”が、こっちに伝わってきたのだが。

数日後と思う。師走で忙しいはじめ頃。
髪のある（↑なんかヘンだな？）幽斎氏が、「全身、白系の服」で現れた（シャツ、カーディガンにチノパンって感じか）。
珍しく、はっきりした音声で「みつひでー！」と、呼んだ。
光秀さんは、”観音様風ロングヘア”に、白いタートルセーター。マフラー、ゆったりめのパンツルックだった。
幽斎氏、白い布にくるまれた”なにか”を、こちらに差し出した。
「ージャン！！」と、全開の笑顔だ。
「…？？？」（↑本当に何度目だ？）となったー布の中身は”赤ちゃん”だったのだ。
「パ◯リロ！」でなし、”そっち側じゃ、男同士でも子供授かれんの！？”と聞くが、とうの幽斎氏、たーだニヤニヤしてる。
光秀さんは、すごく嬉しそうだった。

これと前後して、だがー
余りに気が晴れない為、昼休み、会社近辺の骨董屋に逃げ込んだ。

アンティーク着物が結構ある店だ…ここでひとつ、目につく物があった。
以前から、欲しくて探してた「藤柄の着物」だ。一見「黒留袖風」のものだった。
細川”藤孝”ではなく、別の理由で欲しかったのだがー脳内の、幽斎氏のテンションが上がってしまった！
2万8千円…出したくない。でもアンティークは”一期一会”だ。二度と手に入らないー
”着る事なぞない”と一目で判る、踊り用の着物だ。が、試着させてもらった。裄（背中心～袖口の長さ）がかなり短い。
だが、脳内の幽斎氏、ちっこくなって甘えて（？）「買って買って～！！」と賑やかだ。こ、このナルシスト！

結局、この「藤の黒留袖風着物」、購入した。着られないくせに（独身だし、踊りやってないし、裄どーすんだ）。
度々、この話のなかに出てくるハズだ。
ただし、現存しない。他の着物＆本類とともに、処分されたからだ。
本当に「一期一会」だった……

話は戻って、「ージャン！！」と現れた”御子”だがー
この日の夜、外（林の側らしい、野原）で、幽斎・光秀両氏が「子守り」しながら、野宿しているのが見えた。
二人とも、相変わらす洋服姿で並ぶ。なんか、微笑ましい。
すやすや、眠ってる子供…なんとなく”女の子？”という気がした。

翌朝ー
午前5時40分。起きると…朝の浜辺（どこの？）を歩く”3人”の姿が見えた。
光秀さんがひく、”ちいさい手の持ち主”は、よちよち、という状態だ。光秀さん、かがんで手を握ってる。

赤ちゃん、”女の子”だったようだー綺麗なオカッパ頭の子だ。
「えーッ！？一晩でそんな育っちゃったのか！？」と、向うに言っていた。

昼近く、また脳に”画像”がきた。幽斎&光秀コンビは、全くかわらんが。
今度は、幼稚園児位に、急成長しちゃってた。どうなってんだか。
「ーあ、そうだ、”おめでた”だったね…ケーキ買ってこようか？」
12月中旬になっていたと思う。もうすぐクリスマスだ。個人的にゃケーキなぞ見たくない時期だ。
帰宅時、遅かったがー店が開いていたので、小さいシャンパン、花（黄&青）、プチガトー（悲しいかな、クリスマス仕様だった）を買って帰った。
自室の、枕そばのテーブルに、上記3点を供え、「おやすみ」を言って、就寝した。
（今思うと、相当なアホだー！！）

横になった、頭の中で…”女の子”は、小学校低学年位に育っていた。クールな美少女だ。
幽斎氏に、子守りを頼まれた（光秀さんと、ふたりっきりになりたかったようだ。木の陰に陣取ってた）。
女の子は、見た目より気が強く、憮然として、少々乱暴だった。
私は、子守りがニガテだ。
現実に、姪をあやした時に歌った「朧月夜」を、脳内で歌ってみた。
「大きな栗の木の下で」を歌うと、離れた所にいた幽斎&光秀両氏の「側の木」がでっかく成長しはじめ、二人をびっくらさせていた。

真夜中…私もえーかげん眠りたい。むこうに「おやすみ」を言って、眠ろうとした。
暗い野外、最初は、大きい白い、フワフワ毛布に、幽斎&少女&光

秀と、3人くるまり、手を振っていた。
ところが…しばらくすると、”少女”がいない。
「育児放棄か！？藤孝～！！」と怒った（？）がー
どっかの室内（どこや？）が、急に出てきた。そこのベットの上で、
”少女”がすやすや眠っていた。
そのうち、その”美少女”が…フルサイズの”美女”に＜戻って＞、
寝息をたてていた。
ここでは断定出来なかったが、彼女、”細川ガラシャ（明智玉子）
さんだ！”と思った。綺麗な長髪だ。
残りの二人…ヘンに若い＜舅＞と＜実父＞は、屋外、野原の岩陰で、
より添って眠っているのが見えた。

話は飛ぶがーこの年の、うちの会社の年賀状が刷り上がってきた。
実際に”偶然”だったのだが…
「水色、白（左側＝明智カラー）、カラシ色、オレンジ（右側＝細
川カラー？）」の、ブロック状のデザインだった。
外部のデザイナーにお願いしたそうだが…マジで焦った。
”本当に、支配されてる！？”とか、カン違いが更に、加速してし
まった。

H21年12月21日
”女の子”の背に、＜白い羽根＞が生えた。突然だった。タケノコ
みたいに、片方づつ、だ。
”ガラシャさん？”でなく、”少女”に戻っていた。で、その背に
小さな、ぱたぱたするモノがー
明智光秀さんが、もう、両眼ウルウルで喜んでいるのが解った。（
女性にしか見えないクールビューティだが…）
泳ぎの練習、みたいに、空中で、両手を引いてあげてる。
少女は、大人の頭の高さ位を旋回しながら、ぱたぱたと飛ぶ。本当
に”練習”らしい。

”飛ぶ”練習？それとも、”成仏”の練習…？とも思った。

急に思い浮かべたものがあった。韓国映画「親切なクムジャさん」だ。

といっても、本編とは無関係だ。あの映画に、「Ｄｒスランプ」の「ガッちゃん」マスコットだか、出てきた。

ああ…”ガッちゃん”かぁ、と、アホにも、思い出してた。”ちっこい女の子の天使姿”見て。

（＊今だ、解らないんですが、こういう、記憶もしてないような”ニュースのはしっこネタ”みたいなものが、急に出てきて、びっくりする事が、多々ありました。それでいて、ネタが間違って出てくるんです。これは、統合失調症のせいか、私の頭が混乱してた為か、解りません。

”通常４９　ｏｒ　４５歳”、と言われてるの知ってた、＜斎藤利三氏の享年＞が、”５１歳”と出てきたり。）

この日の夜、やはり、くたくたで帰宅し、床についたがー

打ちひしがれたような、明智光秀さん（と言っても、相変わらず観音様風ロングヘア＆白い洋装）が、”脳内”の私の近くに来た。

”ちっちゃい天使の女の子”は、どこにもいなかった。

暗い、空疎な枯れた林が、周囲に広がっているだけだ。

ー成仏（？）されたのかな…？クリスチャンのガラシャさんはー

”光秀さん”が、もっと近寄ってきた時、私は”細川藤孝”にバケていた。

＜部外者＞の私は、退場だー

それにしても、３日といなかった。こんなに短期間でいなくなると知ってたらー

光秀さんが、深く深く寂しがっているのを、”髪のある”細川藤孝

（幽斎、でなく）が、受け止めてたようだ。

Ｈ２１年１２月２２日

朝、起き抜けから、”画像”が見えた。向うも朝だった。

光秀さんが、少し、とまどっていた。

自分から、幽斎氏にすがったのが意外だったのか？”苦しんでいるので添っている”状態でなくなった、と？

幽斎氏は、まーだ”藤孝状態”だったが、落ち着きつつ、嬉しそうだった。

そうこうしてるうちーむこうの、幽斎・光秀両氏にも、＜白い羽根＞が生えだしたー

通勤電車の中、ぼーっとしていると、パタパタと音（音声でない）がした。

またーあれ？”ガッちゃん”が、上空を飛んで戻ってきた。光秀さん、幽斎氏が、上空を見上げている。

どうなってんだー？？

Ｈ２１年１２月２３日（休日）

この日の朝、登場したのは＜美女＞だった。

フルサイズの、”細川ガラシャ”さんだ（羽根ナシ）。

まっすぐの長い黒髪、大人びたクールビューティで、白いプリーツのワンピース＋白パンプス、という洋装だった。

”マンガ姿”の私（オレンジのやつ）が、となりに並ぶ。ううむ、ルックスのレベルが違いすぎる。

前方に、彼女の、若くみえる＜舅＞＜実父＞が、仲良く、静かに並んでいた。

「貴女も大変だね」と、”むこうの私”が、身の程知らずに、歴史上の有名美女に話しかけている。

ガラシャさんは、大人びて静かに、笑顔を向けてくれた。

（＊そういや、この”大人びたガラシャちゃん”、実は”１５歳位”という、ここでの設定らしいです。微妙に、みんな、年齢バラバラでしたね。
一番ヘンなのは、徳川家光クンかな？ここの基準じゃまだ生まれてないハズなのに、１８歳位で、当時の装束で出てきたし。）

Ｈ２１年１２月２４日
イブの朝、ガラシャちゃんはいなかった…思えば、彼女は”先兵”だったのか？？
むこうも、朝らしい。枯れ木だらけの林のそばだ。そんな寒そうな中、幽斎・光秀コンビが立っていた。
　ところがーこの”世界”の＜上空＞がやぶけた？なんつーか……ここのとこ続いてた、妄想の＜マンガ空間＞に、更にふたり、割り込んできたのだ。
最初、ニンジャかと思った。
二人とも、ショートヘア、シャツにジーンズ、て軽装の男性だ。しゅたっ！！と、降りてきた。
ひとりは、３０代位にみえる、細身で手足が長く、すっきりした顔立ちの男性。
もうひとりは１０代か、目が割に強い印象の、元気が良さそうな若者だ（二人とも、やはりマンガ姿）。
　名乗られやせんかったが、”斎藤利三＆明智秀満ご両人だ！！ーと思った。
今まで、（割に）呑気だった、細川幽斎氏がー身構えた。

家長・明智光秀氏　奪還？

年越して、Ｈ２２年１月だったと思うがー
”ハンチョウ”という刑事ドラマの主役「佐々木蔵之介氏」を見て、だった。
女の子っぽくも見える、脳内の”光秀さん”は、「利三氏に似ている」と、身をよじっていた（？）。
”似てる”ハズだ。斎藤利三氏は、＜斎藤内蔵助（くらのすけ）＞という名でもある。お名前が似てるのに気づかなかった。
ま、たまたまだろうが（私は、俳優さんには詳しくないし）。
私の脳内に出てきた利三氏、似て、スレンダーで手足が長く…力も強かった。

戦国武将同士（といっても、全員、洋服なんだが…）。２対１だったが。
細川幽斎氏、素手で、利三・秀満両氏に「ボッコボコにされて」いた。今迄にない展開だ。
そーいや、４９歳で、戦国武将を止めたんだっけ…と、妙な感慨にふける私（＝傍観者）。
幽斎氏、土の上にのびてしまった。
”ふたりの家臣”に、光秀さんを”さらわれて”しまったのだ。

光秀さん、少し抵抗してたが、利三さん達に連れていかれてしまった。
「なんでこんなキレイになっちゃったんですッ！？」と、
ハッキリ音声で…明智秀満くん発言が聞こえた…それが＜最後＞だった。

こっちは既に、通勤中だ。

この頃はもう、起き抜け、通勤中（特に電車内）は妄想のオンパレードだった。
なんせ、「統合失調症での舞台設定」だ。チャチ極まりない。
”霊現象？”と思っていたがー”幽斎サイド”と、”明智家サイド”が＜壁一枚くらいの距離＞のしきり、なのだ。
それでも、その”うすっぺらな壁”一枚が、幽斎氏、突破できないのだ。

「私の（？）光秀を返せ～ッ！！」と、”明智家サイド”に突進する、細川幽斎氏。
（何故か、坊さんルックに戻っちまってる。）
ところが、一秒足らずで「ぴょ～ん♪」と、飛ばされてくる。面白い。
それを、何度も何度も繰り返していた。全く、”明智方”が心を開いてくれないらしいのだ。
「そりゃそーだろよ。エライ事やったんだし。もう諦めたら？」と、”むこうの私”。
現実には、私は「通勤電車内」で、小説（皮肉にも、伊良部一郎シリーズだった…）を開いていた。
脳内がこんなだったので、ほとんど読めなかったが…というか、ここ一年位、新聞類とかが読めなくなっていたが。ニュースも”死体の出る事件もの”もペケだし。
１０回、２０回…と、突進しては、放り出されてくる、細川幽斎氏。チラ、と、こちらを見てくる。”援軍”を期待しとるらしいが…ムシした。
急に、「うちの社の年賀状」が、画像で出てきた。
＜”明智さんカラー”と、”細川さん？カラー”部分、半分に裂いた図＞だ。

急に、ボーズ頭に先日の「藤の黒着物」着て、「よよ…」と泣い

てみせる、幽斎氏。
かと思うと、ボーズ頭にスパイ風コート着て、雨のアスファルトに倒れてみせる。（元ネタがわからんッ！！）
本当に、マンガ風に「ばんそうこう」だらけになって、よれよれになってる。
ただ、明智さん側、”花嫁は簡単にゃあげません♪”てな、外国の儀式みたい…？？
ボーズ状態・幽斎氏、余裕が無くなってきた。
しまにゃ、本格的に泣きそうに…
「自分は微力ながら、秀吉政権下で、明智さん方（ごく一部／ガラシャさん親子、小也さん、秀満ムスコ君、井戸さん）保護をしてた」と、認めてもらえない。
私はー脳内で、自分でもわからん行動に出てた。
「えーい！！こないだから”ン百年苦しんだ”って騒いでたくせに、1日でヘコむな～！元武将だろが！”こいつ”がお前の援軍だ～ッ！！」
”脳内の私”が、干物みてーなモノ手に掴んでたが、こないだ、幽斎氏が、エリに挟んでたトカゲ（黒い生き物）だった。
なぜか、幽斎氏、その”ちっこい黒いの”をまたエリに挟み、ボロボロの状態で、”明智方”に向かった。

ベニヤ板1枚程度の、”壁”に見えたのだがー
幽斎氏、たたき壊してしまったようだ……と。
パーン！！パーン！！
音が連続した。（実際の音は聞こえないものの）クラッカーがはじけ、”向こう側”はパーティー状態だった。
又、「うちの社の年賀状」が出てきた。セロテープでつながっていた。

中央に、明智光秀＆妻木熙子ご夫婦がいた。笑顔だった。

周囲を、”明智方”の皆さんが多数、やはり笑顔で出迎えていた。
なかに、細川ガラシャさんもいた。
「シャキーン！！」と音つきで、「うちの社の年賀状」が出てきた。
中央下部に、”黄金の鳳凰”マークみたいなモノまで浮かんでる。

ヒロコさんは、おめめの大きい柔和な美女（ただし、やはりマンガ姿）だった。光秀さんのかたわら、微笑んでいる。
宴もたけなわ、てなノリになってきた。幽斎氏が、本当に嬉しそうだ。
「ふーん、大団円？よかったじゃん」
私は、会社に向かって歩いていた。”幽斎氏”と別の脳は、「仕事の段取り」で一杯だった。
なにがなんだか、この時点でも解らなかったがー
連日、とくに通勤中、「このテの妄想」とおつきあいするハメになった事を、まだ理解していなかった。

治療中の現在でも、日に何度かはヒョッコリ、小さい「ツルッパゲの頭」が見える。笑いを取ろうとする。
「統合失調症」は、完全治癒が難しい、脳の伝達物質異常の病気だそうだ。末永くおつきあいを、との覚悟が必要らしい。
良くなったと思って、薬を止めたりするとーもっと重度の”再発”が待っていることが多いそうだ。
ただ…担当の先生のお話だと、同じ「統合～」でも、”軽い方”から、”大変な思いされてる方”まで、千差万別らしい。
「大丈夫！あなたのは、”カゼ”レベルだから！」と、太鼓判を押して下さった。
確かに＜日常＞だけ見ると、私は、申し訳なくなる”軽さ”と思ってはいる。だが…
「もし、ビルから飛び降りても、コンクリで頭ガイコツ割っても、こう言われたのかなぁ…」

どこか、悩んどる私がいる。

「藤の、黒留袖風キモノ」の件は、先に出したがー
一気に処分された着物の中に「青紫の、デカい橘柄の銘仙着物（蛍光黄色の八掛）」てのがあった。
あと、たまたま、処分を免れた着物に、「濃い水色、オレンジの縞模様の銘仙着物」というのがある。
どちらも、”コレクション”であって、年齢的にも、とても私は着られない。
「青紫」のは浅草で買った。迷って、店に通った。これが「”ガラシャちゃんへ　ｂｙ幽斎”？」と、後でカン違いする着物である。

Ｈ２１年１２月２５日　明け方ー（夢から続いてたのかもしれない＝脳が休んでなかった??）
まーた、”お外”だった。今度は少し、木々に若芽があったろうか?
メンバーは、戻ったように、幽斎&光秀&ガラシャ、となっていた。

はっきりせんのだが、まず「愛娘の前で、へばりつこうとする幽斎氏を、光秀さんがストップかけた」所から見えた。
なぜか、ガラシャさんが「当時、私が持ってた着物」で、ファッションショーするハメになったらしい。
例の「藤の黒留袖」他、何着か、はおってクルリと回ってみせる。
舅&実父は、フツーに、綺麗に装う娘を喜んでいた。
「安土時代は、キモノは今と着方ちがうんじゃ…?」と、当時の私の脳にツッコミ入れたいが、それは置いておく。
段々と、ガラシャさんの表情が、暗くなってきた。
と同時に……別の映像が見えた。はじめてみる”生身の女性らしき姿”だった。
ザンバラ髪で、重病のような苦しげな暗い顔。だが、”目”がガラシャさんなのだ…第一、同じキモノを着ている

丁度、「青紫の銘仙」をはおってる最中だった。
「ーやってられない！」という”意思”が、こっちに飛んできた。
バサッ！！……と、画面いちめん、”飛び散る黒い羽根”で覆われてしまった。何事かと思った。
なんと、”細川ガラシャさん”がー”飛び去って”しまったのだ。
”なんで私が、父を囲った人物に、こんな事させられてるの！？」
的なー怒りが感じられたのだが。
残った、細川幽斎・明智光秀両氏、目をぱちくりさせていた。

（＊何度も表記してますが、病気による妄想です…なんで一応、ヘンなストーリーぽいモノがあんだろ？）

この時点じゃ、例えば、春日局（斎藤福）さんとかは、”女の子”姿でチラチラしてただけだが。
細川忠興君（幽斎長男／ガラシャ夫）が出てきた。こちらも多分、15歳くらいだ。
ショートヘア、シャツ、スラックス…「学生」みたいな感じだった。
「ラピュタ」の少年主人公っぽい。
私は、彼がニガテなのだがー可哀想に、出た瞬間から、ガラシャさんに怒られていた。
「あなたのお父様が、私の父になにしてるか解ってるんでしょ！？今すぐ別れさせて！！」
忠興君、奥様に詰め寄られ…父のもとに出向き、父はうかれまくって言う事を聞かず、また、すごすご帰る…
これを繰り返していた。
しかし「細川忠興」肖像画（晩年）は、細い姿と見知ってたのに、なぜこのルックスだったんだろ？

ガラシャさんは、3等身で、母上・ヒロコさんに泣きついて、こ

ちらに「あかんべ〜！」してきた。

（＊どういう設定だか、本当に解りません…）

逆に母・妻木熙子さん（光秀氏正室）は、ちがう御意見のようだった。

「夫が愛されていてよかった」（＝”親友？”に見捨てられたのでなくて良かった、の意）との、オトナなゴイケンだった。

ただし、ヒロコさん、その後、ずいぶん”年下のカワイイ妻”してくれた。

「ピンクが好き、梅の花柄が大好き〜！！」という話題で、一番オトメな対応してくれたのだ。

（＊妄想で、根拠ありません。でも”良妻”以外のヒロコさんも見てみたい。）

とりあえずー今度は忠興君だ。彼は登場時、頭頂からヌッと。カオ上半分出して、見回す事が多い。

その目で、”こちら”を、涙目でにらむ。「私の尽力？」のせいで、立つ瀬が無くなり恨んでおるようだ。

まーた、”父”の説得に失敗、しょげている。

と、（道の中らしいが）反対側から、ガラシャさんが来た。

なんと、「パーン！！」と、ダンナ様・忠興君の横頬を張った。静かに、怒髪点ついているらしい。

怒るガラシャさんを、「まあまあ」と、宥めているのは、母・ヒロコさんだ。

また他に…細川幽斎氏ツマ（正室）光寿院さん（＝沼田麝香）も出てきた。

マンガ姿、なのは相変わらずだが、婦人警官でもやってそうな、目

のキラキラした、元気な女性だった。
（肖像画を拝見した感じじゃ、小柄な方と思うが…）
どーんどん、女性を中心に、登場人物が増えていった。

そういえば、正室＆側室、というのは、現代ではピンとこないのだが…
”明智光秀氏の側室さん＆お子様”の末裔様方が、全国に数家、おられるのでしょうか？
中には、”正室ヒロコさんのお子様”も混じってないのでしょうか？
つまり…一”側室＝乳母さんを、急遽”側室さん”にしたケースも、という。もしかしたら、ですヨ。

光秀さん同様「正室しか持たなかった」と言われる（こちらは本当に↓）細川幽斎氏が、「お子様１０名（夭折した方含）」なのだ。
個人差があるのは、よくわかってますが。
細川忠興くんが、幼少期、危険にさらされた時、乳母さんが帯剣して護った、というし。
”荒木村重謀反”の際、村重氏の子供を、乳母さんが助け出した、て話は有名だし。
光秀さんに、側室さんがいらしたら、何人か、坂本城に残られる可能性もあったんじゃないか？とも思ってしまう。
全ての御宅が、「お子様１＋側室さん１」なら、ちょっとは可能性ないでしょうか？
光秀さん死亡後、”光秀様のだいじな御子様を預かる方＝乳母さんから、急遽「側室さん」に格上げ、とか…

細川幽斎氏義兄・三淵藤英氏が、坂本城で自害された時、長男さんだけ、一緒に亡くなられた。
（他のお子さんは確か、幽斎氏、引き取られていた覚えが。）
光秀さんの長男・次男「の、下の御子様」がいた可能性アリ、てい

うのも理由だけど、
”側室さんなら、ご自分で子育てしてこなかったんじゃ？”てな、トーシロー的疑問も、私は持ってます。

「ソ◯トバンク」の”お父さん犬”は、ずいぶん有名だけど。
二度程、あきれ顔の、細川ガラシャさんが出てきた。
二度目に…彼女の周囲に”白いしっぽ”がチラチラしてるのが見えた。
「…？？？」と、また悩む。
「ガラシャちゃ～ん？」と、とうの舅・幽斎氏が”お父さん犬コスプレ（！）”して、まとわりついているのだ。
片目つぶって、頬杖ついて呆れるガラシャさん。”許さない”訳にもいかなくなったようだ。

Ｈ２１年１２月２３日（ちと戻りますが）
私が台所仕事をしておると、「私の座布団位置で、ＴＶニュースみてる二人の後ろ姿」が、脳内に出てきた。
細川幽斎（髪アリ）、明智光秀（観音様風ロング）ご両人だった。
二人、白い洋装で、ひとつ座布団で座っている”図”なのだ。
「戦国武将ふたりでナニやってんだ？」と、可笑しくなった。

で、翌々日の２５日…
そのニュースでやってた、どっかの高層ビルのイルミネーションを、二人で見に飛んでったようだ。
”永遠の仲が約束される＝両家の、永遠の関係を”というのか？
オバケさんだから、寒くないのか？という軽装で、ふたり、どっかのビル屋上に陣取って、夜景を見ている姿が、脳内にやってきた。

Ｈ２１年１２月２６日
写真がこの日付だから、間違いないだろう…忙しい年末に！と思っ

たが。
３０分位、架空の＜細川幽斎の撮影会＞てのをしてしまった。
今から１０年以上前、会社の同僚の知人の、アクセサリーショップに寄った事があった。
そこで、「それしか見てなかったよ」と指摘されたブローチがあった…今回、急に気になり、現物だしてみて、気味悪くなった。
「九曜紋」型パーツを「七曜紋」状に配置した、オレンジと黒のブローチだった。
「と、当時からまさか、幽斎氏はいたのか！？」とか、悩んでしまった…このブローチも今回「被写体」にしてた。

うちに出てくる＜架空の＞細川幽斎氏は、”九曜紋”は好きだが、”はなれ九曜”はピンとこないらしい。
でいて、七曜紋（北斗七星に由来）にもこだわる。”七曜状水玉”なんかも好きだ。
「江戸の都市計画」に、”北斗七星信仰”がずいぶんからんでる、と聞くが、それと関係してるかは不明だ。
（あと、本に挟んでた”仏様プロマイド”、幽斎氏は”むーちゃん”と呼んでいた。）

この年の６月以降だがー
ふざけて「細川ガラシャ風ネックレス」てのを、自作していた。「九曜紋」「土岐桔梗紋」パーツが付いているのだ。
２６日より数日前、「お礼に」と、先輩から、「ロ〇シタン」石けんを戴いていた。
その「石けん」に、幽斎氏、「ガラシャ風ネックレス」のせて、撮影しだした。
「ロ〇シタン」の袋、空色＋黄色い花、だった。「両家からのお礼♪」とでも、言いたげだった。

（＊実際は、”先輩からのお礼”です！！）

あと、気に入った、アサリの殻（山水画風模様）とか、抹茶コーディネートとかを撮影してまわる。
しまいにゃ…本棚を片付けはじめた。
勝手に（って、私がやってるのだが、意識が無い）元々入ってた本をどけて、”自分の宝物”を飾りだした。
”幽斎氏”が大事にしている本、アクセサリー類、七曜状水玉の皿……
時間、後でみたら、ほぼ３０分。
この間、全く、私の意思は働いていなかった。傍観してる感じだ…
これも「やらされ行動」なのだろうか…？

うちに、着物路線の手芸本がある。日本的クールビューティな長髪のモデルさんが美しい。
他に、「細川護熙」元首相の、ムック本もある。これは資料として購入してたものだ。
ムック本の、「元首相・ハカマ姿で熊本城に」て御写真に、「長髪のモデルさん」表紙を並べてみる。
「うん、長兵（藤孝）さんと玉子、こんな感じだった」と、”脳内の”光秀さんが頷いた。
”ウソ”なハズだ。
熊本城に、細川家が入った時、幽斎氏はかなりの御高齢のハズだ。
ガラシャさんはそれ以前に、大坂で、亡くなられている…”若い頃、ふたり並ぶとこんな感じだった”の意なんだろか？？

H22年、元旦

H22年元旦
年初めに、細川幽斎氏にやらされた事。それは”羊羹”の購入だ。
「丹波ようかん」てのに、オレンジ色の包装させられ、錦のリボンで飾った…それを枕元に置いて、就寝した。

脳内に、ひろい会場が出てきた。天井に、赤く「寿」の文字が見える。（どういう室内装飾だ？）
明智家、その他関係者さん、「新年会」をやっていた。
そこへの「御年賀」だという。場はかなり賑やかだ。
（これは、数日間続いた。こちらの＜初出社の日＞までやっていた。）

なぜか、参加者が全員、「3等身」くらいに見える。ぎっちり人が溢れていた。
幽斎・光秀ご両人も、珍しく、紋付袴姿だった。
幽斎氏は、最近見ない「剃髪」に戻っていた。で「子ボーズ」に見える。
その姿で、笑顔で「背中の羽根」をタケノコみたいに出してみせ、周囲にパタパタ自慢していた。

この時、織田信澄くんは参加してたようだ。奥様（明智貞子さん）と仲良く出てきた。
長宗我部元親氏は、いなかった。かなりお忙しいようだった。
地元「土佐」で、○HK大河ドラマがはじまり、”協力”していた為（という設定）らしい。

場面は変わって…

ひとり、戦国当時の服装（肩布・袴）姿の若人が出てきた。やはりマンガ姿だ。（↑本当になんでだ？）
かーなり、おおきな声で、なにか叫んでる。のだが、”それ”が聞き取れない。
むかーし、あったアニメ「はじめ人間ギャートルズ」に出てきたように、「でっかい文字」化はするのだが…
読み取れるのは、「た」の、一字のみ。

この「た」が、「たまさ～ん（＝細川ガラシャ）！！」と解るのに、少々時間がかかった。
”戦国の若人”、正体は、森乱くん（”蘭丸”は、”惟任退治記”作者・大村由己のネツゾウ）だった。
私の所にきていた”森くん”は、当時の髪型、服装（肩布袴）のまんまだった。
そして、こともあろうに、主君・織田信長氏（も、ここが初登場だ…）を捕まえ、えんえん、説教してらっしゃるのだ。
「信長様のせいで、僕まで”同性愛者”と、世界的に思われているんですよ！どーしてくれるんですッ！？」
「…えーと…」
両ひとさし指、つんつん突き合わせて困ってる、「あの」織田信長氏。

”蘭丸”と名が変わっちゃったのは、信長さんのせいじゃない。が。
”同性愛者説”、若き日の信長氏、”業績”はあるらしいので、どーともコメント出来ない。
私は、個人的には、信長氏は相当苦手（信長公記も、もー血みどろだし…）なのだが…
＜妄想登場＞冒頭から、気の毒な登場の形なのは、忠興くんと一緒である。

そういえば「お参り」のシーンも出てきた。私は信心深くないのに。
Ｈ２２年1月2日だったと思う。
細川幽斎氏（髪アリ）と、明智光秀氏（観音様風ロングヘア）が、同じく「3等身・羽織袴」で、仲良く、ＲＰＧみてーにチョコマカ動く。
どこかの、深い木々の山の中、階段を上ってゆくのだ。
神社（頂上）について、「パンパン！」と、ちゃんと、かしわで打つ音が聞こえた。
「どこ？愛宕神社（東京都）さん？」と聞いたが、違うらしい。

冬休みのどこかと思うが、ダウンしてしまった日があった。一日、横にならざるを得なかった。
（＊ところが、”妄想”がひっきりなしに出てきて、休んでたのに、更に疲れました。ドーパミン過剰のせいでしょうか…）

＜休んだ＞状態で、”オレンジの娘（むこうの私？）”が、ず～っと、説教しまくっていたのだ。
犠牲者は、細川忠興くん。何故か、彼、全く口答えしない。
「貴方は、後年、実の父親を”切り落とし”ましたね？」
「関ヶ原の後の、息子達への、あの態度はないのでは？」
「豊臣から、徳川への政治移行のなかで、舵取りが大変だったのは理解できる」
などなど…これ、必ずしも私自身の意見ではない。なんか”自分の脳内から、データが吸い上げられて、勝手に構築された見解”て感じだった。
この時の”２０歳位のオレンジの娘”は、おごそかっつーか、偉そうだ。”私”ではなかった（という設定）らしい。
全く、忠興くん、言い返さない。

そこへ、ガラシャさんが通りかかった。
そしたら、ガラシャさんにまで”演説”しはじめる”オレンジの娘”。
「貴女が、お父様を心配するのは解るが、幽斎氏はもう少ししたら落ち着くので、しばらくは見守っててあげてくれないか」
「貴女は、忠興氏の側室問題で辛い思いをされていたが、小也さん（＝姪）については、”明智一族身柄保護”の意味合いもあったのでは？貴女が亡くなられた後、彼女が正室に近い扱いを受けたのは、”細川家と明智家を一体化しようとされてたのかも」
ガラシャさんは、何気なく通過しただけらしいが…ぽかんと口をあけて…で、やはり一切、反論してこないのだ。
忠興くん、何故か”オレンジの”に、「へへ～！」と、土下座しているし…

後で出た「設定」だと、ここで”説教”してたのは＜私＞ではなく、＜私のデータを使った”仏様”のどなたか＞らしいのだが…宗教に関心ないのに、ややこしい。とにかく具合悪い時くらい寝かせてくれ。
どうなんだろなー？私は、信心深くないのに、結構、宗教的な事象？が”妄想”で出てきた。
統合失調症は、１２０人にひとり位は患者さんがおり、「ストレスと不眠」が、病因という…病因を考えると、意外に発症しやすい気がする。
「症例」によっちゃ、＜同じ目に遇った＞ひとの中には……”私は神様（他）に選ばれた”と、誤解されてしまう方もいそうだ。

そういえば、先日飛び去ったガラシャさんは「青紫の銘仙着物」じたいは、「お気に入りだった」そうだ。
「原色の青が好き！」だそう（私に、着物店通いさせたの、ここでは選んだ舅・幽斎氏、となっていた）。

後でガラシャさん、銘仙着物で、学生みたいな「ダンナ様」と、睦まじくデートに出かけていた。
また、笑顔で「うち（＝明智家）、みんな仲いいんです♪」と、嬉しそうに自慢していた。

で、森乱くんに戻るがー
森乱（乱丸）＜１５６５～１５８２年＞、若くして、二人の弟くん達と、”本能寺の変”で亡くなられている。
つらい所だが…細川忠興・ガラシャ夫妻と、そう年が変わらないのだ。
複雑な気分だ。当時の死生観は、現代のそれとだいぶ違うとはいえ。
で、「たまさ～ん！！」の件だが、ドーパミンのせいなんだろうが、どうも、こちらじゃ「細川ガラシャ（明智玉子）に憧れていた」という設定になっちまってたらしい。
事実は知らんが。そもそも面識があったのか？という疑問のが先に来るが。

家族３名も失った、”本能寺の変”の後の「森家」だが…
有名な話だが、「信長・乱丸を討った明智方＜安田作兵衛＞氏」を…召し抱えている。
「武功は武功」として、家臣の反対を押し切った家長・森長可氏スゴイ話だと思う。”武士の”というか、”当時の価値観”が凝縮された話だと思う。

森家は（本物の、織田信長氏遺体が埋葬されてると聞くが…→）織田家に関わりの強い「阿弥陀寺」を、同寺に圧力かける豊臣政権下で、大事にしていたという。
と同時に、「安田作兵衛」氏をも、手元に置かれたのは…
どこかで「明智光秀氏が、動かざるをえなかった」部分も、理解されてたのだろうか？？

個人的には、森長可氏にインタビューしてみたい位だ。
（いや、現実には、”当時”の主要関係者全員に、お話伺ってみたい…んでないかな？多分、大半の日本人は。）

”脳内”に現れた、森乱くん相手に、私は（自覚なく）無神経かつ、トンチンカンな質問をしていた。
「…もしかして、光秀さんを”お父様”と呼びたかった、とか…？？」
なんと、両手組んで、全面笑顔で、お乱くんが、うなずいとるのだ…
（＊→これも、ほかの妄想同様、なにが根拠か解りません…。）

うーん…多分、”健全な森蘭丸”って、みんなあんまり想像しないだろーなぁ。
（＊”不健全”は適語でないにしても、”おでんと光秀が好きー！と騒ぐ”細川幽斎”も、想像するヒトなぞおらんと思うが……）

”観音様風ロングヘア”の光秀さん、他「明智サイド」の方々と、森乱くんが、笑顔で握手をし合っていた。
当のガラシャさんは、何故かみかん食べていたが、森乱くん、光秀さん達より更に嬉しそうに、握手してまわってた。
とにかく、想像したことのない光景だ。
「…４００年以上経っちゃったから？今が”戦乱の世”じゃないからかな？……平和って、偉大だよな」

他、誰が出てきたっけ？”新年会”に。
吉田兼見氏（幽斎イトコ、サラリーマン風の姿で出てきて、酔っぱらいすぎて、イトコに怒られていた）。
織田信澄氏（織田信長甥＆明智光秀娘ムコ、元気が良くて、カワイイ貞子奥様を振り回していたよう）。
柴田勝家＆お市ご夫婦とかも出てきていた。

光秀さんは、気の強いお市さま&濃姫が、なんとなしニガテそうだった。礼儀には気をつけてたが。

織田信長氏も、一緒に騒いで盛り上がっていた（皆と同じく3等身）。

泣いて、信長氏にわびている、明智光秀さんがいた。

その「キンカン頭？（観音様ロングヘア）」を、なでて「悪かった」と謝ってる、信長氏も見えた。

どちらも、「あるわきゃねーだろ！！」と言われそうな光景だったが…病状の進んだ私の脳内？では「実現」してしまった。

安土の頃は戦争漬けで、「戦闘状態が当たり前だった」から…”覚悟”してた所あるのか？信長氏も、光秀さんも、みんな。

よくわからなかった。

織田信長氏、もっか興味は、御子孫サマ（てバレバレでしょうが）の、フィギュアスケート一色らしかった。

茶筅マゲ、具足の上に、ヒトの「グリーンのプリーツスカート」はいて、会社の机の上をスケート靴で滑りやがった。ちっこいサイズでだ。

光景が、”マンガ空間に切り替わった”状態だったがーこれも立派な「妄想」なんだろな。仕事の妨害してくれた。

3等身だった…これも”メモル”の項で出た”魂の姿”てワケじゃないだろうが…

お市さま（有名な、信長氏の妹御）まで出てきた。

私があまり、信長氏が得意でないのを知ると、兄をかばい出した。

「いい兄なの！さっぱりした性格で（そう？）。嫌わないで！」と、健気に訴えられた。

だがー”自分の好みの物獲得”となると、豪腕を発揮し始めた。

赤と黄がすごい好きで、ねだり倒され、この色の帯を急遽、縫わさ

れたりした。
更に、お市さま、（小袖姿で）ノリノリになり、信長氏とふたりでペア組んで、フィギュアを滑ってくれた。
が、調子に乗った信長氏に「ひょ～ん！」と、放り投げられてしまい、烈火のごとく怒った。
「黄色い着物買って～！！」と、何日も、信長氏に食い下がっていた。

濃姫（＝帰蝶さん、信長氏正室）も出てきた。
いきなり目ェつり上げて出てきた。「戦国の姫君」まんまの服装で、怒りのオーラ全開だった。
仕事中、周囲が「マンガ空間」に切り替わり、ドアから「バタン！」と入ってきた。
（思えばこの時点で、統合失調症が結構、進行しちまっていたのだろう…）
会社近辺の、デパ地下から持ってきた（？）食料を食べ始めた。
食べる食べる食べるー「どしたの？」という程、山積みの食料品、平らげてゆくのだ。
そういえば……
「…織田さん家の食事、しょっぱくなかった？」
脳内で（仕事しながらだが）濃姫に聞いた…「ビンゴ！」という表情になった。

本当にー”信長さんちの食事”は、尋常じゃなく、塩辛かったというがー通常の3倍くらい？
塩をそのまま舐めたりしたらしい。
”織田信長、高血圧でキレやすかった”説まであるくらいだ。

その後ー濃姫だけでなく、他の側室さんたちにまで、”女性集団”に、信長氏、追っかけまわされていた。食料のウラミ？

ボロボロになった信長氏と…となり、バツ悪そうにすわる、お市さまがいた。

明智さんのほうも書きますか。”戦国武将の結婚”が、こんな呑気なものとは、考えた事もないのだが、”脳内ネタ”として。

「妄想」で、登場人物がどんどん増えるって例になりそうだし。（こんなもんじゃなかったが…）

光秀さんのお子さん、正確な人数すら解らないと伺うがー

まず、明智倫子さん（範子さんとも。秀満氏妻）

うちに、「マ〇ケンサンバ」が踊れそうなスゴイ着物がある。濃水色×オレンジの縦縞の、銘仙着物だ。

これを好んで、着て現れてくれた。ラスタカラーも好きで、ラテン系シュミらしかった（私の脳内では、です！）。

「アフロのカツラ。サングラス、７０年代ルック」で、出てきたりもした。

ダンナ・秀満君いわく「気の強い女が好きだから」とか…服のシュミは？

明智貞子さん（織田信澄氏妻）

一見おとなしく、「強引なダンナ様が大変で…」とか言いつつ、ラブラブそうだった。

黒の、雪花紋の着物とか着てくれていた（これも現存しない）。

私の着物本で、現代（と言ってもアンティーク）着物のお勉強を、熱心にしていた。マジメなキャラだったがー

”妄想”状態で、うちの社まで”集団で同行”してきた際、うちの男性社員にかっこいいヒトがいないか、楽しみにしていたようだ。

明智律子さん（養女さん？狩野家にお嫁に？？）

彼女は「水色が好き！！」と言っていた。他3名が「ハッキリした

青」がいい、と言ってた（光秀さんがガッカリしてた）のと対照的だ。
ダンナ様が、狩野家（画家…というか、デザイナーかな当時の）で、「大名」他、受注作成していたのがあり、「可哀想！」と言っていた。
好きな物が書けない、の意だろうか？

斎藤利三氏＆奥様

奥様と、「何色が好きなんだ？え？紫とピンク～っ！？」という会話が聞こえてきた。
利三氏、お子さん達、奥様、母君の事を、すごく大切そうに話す場面が出てきた。
（これは完全に架空だが）”家紋は、雪輪だ”と言い出した。で、雪輪柄を見つけると、すっごく嬉しがるのだ。
光秀さんがらみで、ギャグもやってくれたが、今いちイミが解らなかった。

斎藤福さん（＝春日局・斎藤利三氏娘）

まだ娘姿で、おとなしいがーキャリアウーマン状態だった。”出社”のおり、先輩の仕事ぶりに感服していた。
それでいて、最近の、例えば菓子みたいな美味しそうな色とか、フランス趣味が好きらしい。
ア◯ロチョコ買う約束してたのが、伸び伸びになってしまった。

沼田麝香さん（＝光寿院・幽斎氏正室）＆娘さん達

出てくる「細川幽斎氏」が、途中から「昔の資料は見たくない、当時を思い出したくない～！！」と騒ぎ出し、私側は一切、”本能寺他”歴史資料に当たれなくなった。
（＊字が読めなくなる…というか、受け付けなくなる、ていうのは、精神系の病気では、ある事らしいです。私も、新聞がダメになりま

した。）

光寿院さんは…ダイナミックな趣味のヒト、てキャラで出てきた。ガラシャさんとも仲が良さそうだった。娘さん達は…いや、賑やかだった。当時、自宅にあった私の着物の分配なんかをやっていた。

「夫が、帰ってきてくれて良かった…」

気丈な、光寿院さんが、涙されている場面もあった。

筒井順慶氏

本当に、最後のほうに出てきた。

「彼、出てこないね～」と思ってると、＜ひとつの部屋＞が脳内に浮かんだ。

マンガっぽく、「し～ん」という”文字”が浮いた、暗い空き部屋だ…と、急に、ひとり男性がにょこっと、顔出した。

彼が、順慶君らしかった…なんと、なでつけ気味ヘア、濃灰色のスーツ姿だった。

「せ〇とくん」じゃないケド…”あの世”から、奈良の観光ＰＲに尽力してて忙しかった（長宗我部君と同じパターンだ）そうな。

他のメンバーよか若い（光秀さん、享年６７歳だと…ヘタすると”孫”くらいのトシになる…）順慶くん。

”光秀さん”と”藤孝氏”の間にはさまれて大変だった、と訴えられた。どう大変だったかというとー

（＊架空ですよ！！）

「付け文送ったが返事がない！」（藤）＆「もらってしまった！！」（光）という…あ、ありえん！！

結構ガマン強く、「なんで光秀を助けなかったんだ！！」と、（自分棚上げの）幽斎氏の、泣きわめき抗議にも、ぐっと唇かんで耐えていたようだ。

私も”助けてあげて欲しかった”がー
多聞院日記を見ると、相当、当時「情報が錯綜していた」ようで（細川氏も死んだ、てな情報も来ていたようだし）、かなり判断に困ったんではないかと思う。羽柴＆明智の双方からの「圧力」もあったろうし、大和の「長」として、判断下すのは楽じゃなかったろう、と、少し同情してしまう。
当時は皆、同じ状況だったと思うけれど。

妄想のネタで、御大がふたり、残ってる…書ききれるかなぁ？

長宗我部くんと徳川くん

Ｈ２１年１１月中旬だったとおもうがー
会社の仕事で、納期前に仕上げたのに、急遽、全面やり直しを命じられたものが出た。
おかげで連日、１０時代終了の、残業漬けになってしまった。
私も会社員なので、当然の事、従った。つーか、やらにゃ終わらんでしょう、仕事。単純に。
ところがー”脳内”でー細川幽斎氏（３等身）が、わんわん泣きわめく。
「帰ろーよう、見てられないよう」と、子ボーズ姿で、ひっきりなしに泣くのだ。
（＊必ずしも、”自分に同情して、こう出てきた”訳ではなさそうです。これのおかげで更に苦境に立たされました。やってる事はジャマですから）

残業時でも、通勤中でも…しまいにゃ、仕事中まで「泣き続ける」。
すると、困った事に、”現実の私”も涙が出てきてしまうのだ。止まらない。始末が悪いったらありゃしなかった。
後でー治療を始めてから、会社の先輩に伺ったら、周囲に”泣いてる”場面を目撃されてしまってたようだ。
私なりに、必死に隠していたのだが、無駄骨だった…

”見てられない”から、幽斎氏、私のかわりに（？）ＰＣ作業し出す。
残業時、私が机でＰＣ操作しとると…墨衣、ツルッパゲ姿で、脳内に現れー”代理”で、私の手足を動かし始めるのだ。
意識の上じゃ、私は「座る幽斎氏のとなりに立って見てる」感じに

なる。
そして幽斎氏、入力しながら何故か下ネタを言い、急に現れた長男「細川忠興クン」に殴られていた。
……当然、実際にＰＣ作業してるのは”私”だがー更に疲れた……

しまいにゃ、”歩くのも大変だ！！”と、口出しし始めた。
重たい＜現実の私の肉体＞を、オバケ幽斎氏が乗っ取って”歩かせ”ーその横、幽霊状態になった私の魂が、飛んでるのだ。脳内の画像じゃ。
しみじみ、変な妄想である…
自宅に深夜、帰宅するとー私のそばで、ベロ～ンと伸びきったボーズ風・細川幽斎氏の”画像”が見え、その側で、明智光秀さん（観音様風ロングヘアに洋装）が付き添い、介抱しあげてるのだ。幽斎氏はミョ～に嬉しそうだった。

やっとこさ、問題の仕事が片付いた、Ｈ２１年１２月上旬。
「服が無い～！！」と困ってたので、急遽アウトレットに出かけ、コートを物色していた。
（当時の美意識と違うハズだが）幽斎氏、「ウェストを絞ったタイプのコート」が気に入り、選びやがった。着るのに未だに苦労する。更にー”これ”は、私は、視界に入れた覚えすらないのだがー
急に、サッと勝手に、右手が動いた。
ひとつ、「ブツ」を掴んでいた。掴んだ私自身が「…？？？」と悩んでいた。
カラシ色の、縄編みのマフラーだった。
本当に、スリでもやったように、素早かった……これも「やらされ行動」とかいうものだろうか？
見たら、「子供用」だったが（笑）ーこのマフラー、購入した。
大人でも使える長さだったし、この所の「お手伝い」のお礼、という事にした。

（＊振り回されてました…1年以上？”きっちり”出始めてからでも半年以上のお付き合いです。
本来なら、実在した歴史上の”細川幽斎”氏とは、全くの無関係ですし、担当の先生にならい”子ボーズ”とでも呼ぶべきでしょうが…かえってややこしいので、そのまま参ります。
”藤の花”が咲いていると、喜ぶし、ペリウィンクルの青紫色の花見て”桔梗みたーい！”と喜ぶし…）

幽斎氏ほどではないが、私を”振り回してくれた人物”が、もひとりいた。
土佐の「長宗我部元親」氏だ（当然、架空の、だが）。
元親氏は、四国を代表する戦国武将のひとりで、「〇ＨＫ大河ドラマ」リクエストＮｏ，１のおひと、と聞いた事もある。女性ファン多し。
明智光秀さんの、長年の盟友だった。
「四国統一」を目指していたものの、織田信長氏の、一方的「方向転換」で、”敵対武将”になってしまった。窮地に陥ったのだ。
「本能寺の変」６月２日の翌日ー６月３日が、＜信長が、ムスコ信孝の軍勢を、四国に派兵する＞まさに、「予定日」だったのだ。
光秀さんと、元親氏は、なが～いおつきあい、もあるがー
光秀イトコ？斎藤利三氏＆石谷頼辰氏の妹御が「正室」、光秀メイ？？が「側室」という…「一族といってもいい位近い」存在だった。
織田信長氏からみたら、部下・光秀さんは「謀反人」にあたろうが…長宗我部元親氏からみてみると…光秀さん、「命の恩人」なのだ。

最初に、「長宗我部元親氏」らしき人物が出てきたのは……〇ＨＫ大河ドラマ「龍〇伝」放送一週間前だった。
脳内に、どこか判らん場所が出てきた。おおっきな立て看板が見える。描いている最中で、ちいさい人影が動いている。

看板は、「坂本龍馬姿の福〇雅治氏」が、描かれてゆく最中だった。どうも、これが、同じ土佐出身・元親氏（地元宣伝活動中）らしかった。

同じ日、遅い帰宅中、空に、たまたま「とぐろ巻いた龍」みたいな雲が浮いていて、変に気になっていた。

初回だけ、「龍〇伝」を観た。

オープニングから「龍」出まくりで、根拠もなく「ああ…」と、思った覚えがある。

数日後、フツーに、出社の身支度しておると…

脳内に、急に「馬」が現れた。

”キキーッ！”と言わんばかりに、＜脳内の私＞の前で止まった。

上に武者が乗った馬。すべてがマンガ風だ。

兜なしの、白ハチマキにロン毛の”武者”が、笑顔全開で、手を振っているのだ。

「チコクしそうなんだろ？」と言うやいなや、ヒトの腕掴んでーそのまま猛スピードで走り去ってしまった。

数秒後、慌てて戻ってきた。

「あの…（ぜいぜい）…”魂”だけ出社しても…”本体”が行かないと…」

「あ…そっか…」

この”そっか”と言った武者が、”長宗我部元親”氏だった。

ちなみに「B型？」と聞くと落ち込む。（これは、信長氏も同じだ）

なんでやねん？

次に、元親氏が出てきた時、「デカいバイクにまたがって」いた…まあ、”馬”と似てなくもない。黒い皮のライダースーツ姿だった。

で、おひとり、女性を乗せていた。

楽しそうに、ふたりで走り回っていた。

”彼女”は、みんな（女性陣）と一緒にやはり着物を着て、くるくる笑って見せてくれた。
この、元親氏の女性、細川ガラシャさんをパァっと明るくしたような（ガラシャさんのクールぶりに対し、庶民的というか）美女だった。
最初、単純に「奥様？」と思っていたのだがー
ずいぶん後（治療開始数日前）になって、元親氏の側室さん（光秀氏姪？）では？と思うようになった。
正室さん（斎藤利三氏妹）が、別口で、出演してきた為だ。彼女は（妄想の中では）大人しげな女性になっていた。
＜実際＞はどうだか解らないけど。そもそも”側室さん”は有名じゃない。本当に存在されてたか？姪なのか？？とも思うし……

武将姿で出てきた、もうおひとり…安田作兵衛氏（信長氏を直に討った人）。
”本能寺の変”後、森家に仕え、さらにさすらい…”本能寺”の日、自殺されたと、なんかで読んだ…波乱の人生送られた方だ。
一度しか、出てこなかった。
明智光秀さん、斎藤利三氏と、涙なみだの顔合わせをされていた。
一説に、安田氏、「明智側敗戦」の後、明智貞子さんをかくまっていた、て話があったがー本当なんだろか？？

昔の姿でーというと、もうおひとりいた。大御所が。
私は、彼は、「細川忠利氏」（幽斎＆光秀マゴ）に、熊本藩５４万石を与えたのは…”光秀さんへのお礼？”と、勝手に思っておるのだが。
”彼”は、登場時……暗めの部屋（うす黄色い照明？）のなか、ひとり黒い束帯姿で、鎮座していた。
部屋は、なにもない。一枚、掛軸（本人と同じ、束帯姿の男性の絵）だけが掛けてある。

空調もなさそうな部屋、ぽつんとひとり、じっと、座っているのだ。
　これがー”徳川家康氏”の、初登場シーンだった。
ちなみに、こんな”大河”な服装は、こんときかぎりだった。
イエヤス君まで、後は、またショートヘア、白Yシャツ、スラックスかなんかになっちまっていた。
この密室は、”日光東照宮の、東照大権現サマのお部屋（墓）内部”らしい。
唯一の飾り”掛け軸”は、「3代目（実質、初代松平）／松平信光氏」らしかった。

　ず～っと、日本の天下太平を護っていたんだろう、”徳川家康”が、動き出した。
（後のことは、御近所のマゴ・家光クンに任せたらしい。）
イエヤス君、ざっくりショートに洋装で…ムリに似てるヤツを探すと…「キャ〇テン翼」の若林源三あたりだろうか??体格が良いのだ。
やはり、彼もマンガ姿なのだ…なんでなんやろ?
　出て来た「イエヤス君」は、切実に、明智光秀さんと、接触したがった。
ところが、なんでか、光秀さん側が逃げる。スゴク恥ずかしいらしい。
どうも、地名「明智平」だの、「徳川家光（家康＋光秀＝家光、という名付け説アリ）」だのが照れくさいようだ。

　偏諱…どうでしょうねぇ?確かに、”家光”と名がついたのは、家康氏死後だけど……
家光元服前に決めておく事くらい出来るしね?大事な事だから、家康氏生前に考えてたかも。
私は、?家康（父祖）＋光秀（10日少し、といえ、時の権力者）、?家康（時の権力者）＋松平信光（父祖）、の両説をとっています。

イエヤス君側は、「どうしても光秀さんに遇って話したい！！」と、切羽詰まった感じだった。
ただし、（うちに出てくる幽斎氏みたいに）「光秀みつひで～！！」と騒いだりはしない。沈んだように無口だ。
それがかえって切なげだった。
別に、光秀さん側は、無視してるワケじゃないのだが、思い詰めてしまってるらしい。
「ま～た、私が、仲介役ですかぁ！？」
なんせ、”私の病気の妄想”なので、最終的に、私におはちが回ってくるようだ…後述します。

”妄想”のネタは、必ずしも”歴史上の人物”だけではなかった。
後半から増えたのはむしろ、近年お亡くなりになられた方々か…生きてらっしゃる方々だ。知人から政治家から、多彩だった。
ネタは、苦しいものもあったが、私にとって不快なものは少なかったのが、幸いだった。
だが…登場人物として、「細川幽斎&明智光秀」が、突出して多かったのが、腑におちない。
なぜ、このコンビやねん？？
現・細川家さんも、「綿考～」等の影響もあると思うが……
「逆賊・光秀に組みしなかった細川幽斎」てな、枕言葉がついてまわる。
御内心は、違うのかも知れないがー
「織田信長&明智光秀、ご両家御子孫様の和解」てな事は…明智・細川間には、無理なお話なのだろうか…？
個人的には、憧れているのだけれど。
病状のせいか、何度となく、＜架空の幽斎氏＞に”両家の末長いな〇よし”を、祈らされてきたのだ。神社仏閣を通るたんびに。

これは、Ｈ２１年と思うがー
ある番組で、「イタリアの美しすぎる〇〇（色んな職業の女性）」というコーナーがあった。
私の家では、ＴＶ観ながら食事中だった。
…と、私の脳内に、急に「画像」が展開し始めた。
よく知られる「明智光秀氏肖像画」がなめに出てきてーその手前、子ボーズ・細川幽斎氏が、両目？？、更にハート飛ばし続けているのだ。
そういう画像が急に出てきて、続いた。面食らった。
”統合～”のカンケーで、周囲の物事に、簡単に反応しただけと思うがー
「美しすぎる戦国武将・明智光秀チャン　ｂｙ幽斎」とでも言いたげだった。
どっから、こんなキャラが形成されたんだかー
”光秀氏の出る茶会、連歌会に、すごい出席率を誇ってた”とは、ネット情報で見はしたのだが……

妄想は、幽斎、光秀両氏が中心だったが…
女性陣（妻&娘）さん方の間で、私の集めていた”アンティーク着物”類が、取り合いになっているようだった。
よく着付けられるな、と、関心していたが…
脳内で、彼女達がよく、気に入ったコーディネートを見せてくれて、面白かった。
「うちの御近所に、リサイクル着物店があるよ」と、教えるとー
幽斎氏妻・光寿院さんが、眼をキラキラさせて、みんな引き連れて「ゴー！！」と…集団で、飛んでいった。
後で、光寿院さんが、”新しい着物コーデ”を見せに来てくれた。が……
「ゴメン、折角なのに…私の脳にデータが無いせいか、”着物”が見えないんだ」と、詫びた。

”脳内のもので構成される、統合失調症の妄想”という、教科書？まんまの事が、私の脳内で起きていたようだ。

幽斎氏は、お気に入りのボサノヴァ「メディテーション」に合わせ、テンポ良く出て来たりしていた。
明智光秀さんを筆頭に、”身内”で仲良くいられるのが、嬉しくて仕方ないらしい。
新年会は、1月5日（会社初め）でも、ま～だやっていた。
というか、”明智さん単独新年会”だったのに、嬉しすぎて、勝手に乱入してったらしい。
で、盛り上がっているさなか、「ガラシャさん達を護った」という理由でか、皆に胴上げされていた。
「シャキーン！」と、幽斎氏がじかに効果音付けて、画像「鳳凰つき・うちの社の年賀状」が出てきていた。
それでいてーひと悶着あったようだ。
仕事中、何度か宴会の”光景”が、こちらに見えるのだが、「ストップ！」て感じで、斎藤利三氏が、こちらを静止する。
マンガっぽい、乱闘騒ぎがあったらしい。細川幽斎ＶＳ斎藤利三、明智秀満、というメンバーらしかった。
仲が悪い、てワケじゃなさそうだ。
”光秀さんと、利三氏が、仲良すぎる”と、幽斎氏がヤキモチでも焼いたのが原因らしい。
……という光景が、「仕事中」に、脳内でチラチラする。
私なりに、マジメに仕事しとんのに、なかなか集中できず、消耗していた。

家に帰ったら帰ったで…各家の女性陣（の3等身姿の妄想群）がワイワイ集まって、”着物”で楽しく遊んでいた。
”私”の落ち着く場所がなかった。
可愛いはカワイイが、室内で、着物取り合ってケンカしてたりする

し。

（＊”統合失調症”の、症状のひとつ、”みんなに見張られている”と思い込む妄想…に、似てる、かな…？？）

Ｈ２２年１月に入り…この頃は、ほとんど残業していなかった。出来なかった。年末からの持ち越しを、本来なら、必死になってこなしたかったのに。

上記の妄想の上に、”妄想クン達からリクエスト”で、あれ作って！てな事も連日あり、とにかく疲れきっていた。

妄想だけでも、随分、エネルギーを消耗していた。

後で考えると…２月に、異常事態（＝急性期）になる予兆は、十分あったように思う。

雪の日、鎌倉で

Ｈ２２年１月だったか、＜栃木／日光かまくら祭＞の時、雪が降ったとニュースで言っていた。
明智、細川、他…各家のメンバーに、「遊びに来たら？」と、徳川家康氏が、お誘いしていた。
（織田家は、入ってなかったかもしれない。とにかくフィギュアで盛り上がってて、それどこでなかった模様。）
折角、イエヤス君の家（墓？）御近所でのおまつりだ。
病気といえ、「みんなでお邪魔したら？」とか、私が、脳内で、”皆”に勧めておるのだ。
オバケさんなんだし（？？）「寒くないなら、女性陣は、アンティーク着物で出かけたら？」と、更に、余計な事を勧めていた。

イエヤス君が「ぜひ！！」との事でー明智、斎藤、細川ー他の面々が、なんと、まーた宴会してた。
せまいハズの、”東照宮のイエヤス君の部屋（墓）の中が……”同世代？の人々で、すし詰めになっていた。
酒類も、おつまみも”現代もの”だったのは、病気といえ、私の嗜好が出てしまったのだろうか？
相変わらず、「観音様ロングヘア」に白い洋装の光秀さん、ボーズルックの幽斎氏。
兼見氏、森乱くんまでいたような気がする。えらい賑やかだった。
「やっぱ、４００年もたつと…丸くなるの？みんな全く”戦国”っぽくないんだけど…」
（戦国っぽくないのは、私の脳内だから、と、今では思うのだが……）

斎藤利三氏は、娘・福ちゃん（春日局…大人しい！）他、女性陣

を引き連れて、雪の「日光見物」をしていたようだ。
彼自身、Ｙシャツ、スラックスの軽装だった。
うちに出てくる”利三氏”は、「なにもしてやれず、苦労かけたから」と、すごく家族を大事にしていた。
でいて、イトコとも言われる主君・光秀さんと「少し親密すぎる」形で出てきたのは何故なんだ？？
「十兵衛～」という、おとぼけ小説ならともかく…実際には、私はそんな事は考えてなかったというのに。

資料を見たら、享年４９歳、４５歳説がある（らしい）斎藤利三氏（妄想じゃ、何故か５１歳になってたのがナゾだが…）。
”明智光秀の老臣”とも書かれるんだし、お若くはなかったと想像するがー何故か、”光秀おい説”まである。
そして、”そりゃムリムリやろ？”とツッコミ受けていた…
”美濃のマムシ”斎藤道三氏の関係者　ｏｒ　無関係、と、諸説あるが、私は色々言える程、ネタを持ってない。
ただトシはーもし享年４９歳だと……信長、幽斎両氏と”おない年”になるハズだ。
（”本能寺”当時。ちなみに、吉田兼見氏は、ひとつ下の４８歳。）

もし光秀さんが、当代記”享年６７歳”とすると…吉田兼見氏の”父上”と変わらんおトシ位になる。
つーか、６７ー４９＝１８歳。
光秀さん、”信長、幽斎（藤孝）、利三”三氏の＜父上＞で通るおトシ、になっちまう。
本能寺の前まで、”親友”と言われた”幽斎氏”と、そーんなトシ離れてたのだろうか？？
ガラシャちゃんは、光秀さん４８歳前後当時のお子さん、て事になるのか？？
そんなに（当時の）御高齢の方、あの信長氏、”武将”として、近

辺に置いてこき使えただろうか？
光秀さんは、豊臣秀吉氏とタメ張る元気を、持ち続けておったろーか？？

”本能寺”の頃、細川忠興クンは１９歳位か…２児はいた、”お父さん”だったハズだ。
このテの話は、個人差が激しいが、個人差あるにしても、「奥様の出産可能年齢」はあるだろうし……。

タイムラグなしの、「当時の方々の日記」の中じゃ、”本能寺”で相当、斎藤利三氏が動いてた”と、色々書かれているようだ。
ただ、斎藤福（春日局）さんが、江戸幕府で活躍し出し、彼女の関係者も、”徳川”のもと、高い地位についていった。
そう考えると、下記のネタなんか「…これも、なんか隠そうとした為の情報？」と、私なんかにゃ読めてしまう。

・斎藤利三は、”本能寺の変”に反対してたが、イヤイヤ付き合った。（某県知事氏の若い頃の、某〇ライデー襲撃事件みたいじゃん…）
・斎藤利三は、明智家に来て間がない、新参者だった。
・利三氏が、信長氏から「明智家から出す」よう命令があったが、光秀さんが従わなかった為、暴力をふるわれた。
後世の軍記物なり、お芝居なり、後世徳川の情報操作なり、あったのか？とも思う。
なんかね…ムリに、「光秀&利三」を遠ざけようとしてね？て気すらするんだよなあ…まとめて見ると。
このノリでゆくと、「利三＝光秀おい説」も、創作かもしんない。
年齢差をつけて、「利三氏は、光秀さんに逆らえなかった」ように見せるとか。
私の”妄想全開状態”と一緒で、”本能寺”関連情報は、それこそ、

世間の「うろこ付きまくり」状態なんだろな、と思う。

どうやって”オバケさん達”が、「雪の日光」をアンティーク着物で観光したかは知らない（画像が来なかった）。

同1月16日の、「世田谷ボロ市」に行った際、この時のメンバーが”一緒”に来ていた（という妄想状態だった）。
妻、娘達が、着物を欲しがり、一部、本当に購入したのだ。
・桜色の帯（ヒロコさんへ、光秀さんが）
・夏銘仙で、「桔梗と、黄色い蝶」柄の青い着物（妻&娘達へ？、光秀さんが）
・オレンジ地色に、白ユリ、小菊柄の着物（孫娘へ、幽斎氏が）
これ以外は、とてもじゃないが、重量的にムリだった。ただ、同行の”妄想クン達”は、楽しそうだった。

”青い銘仙着物”については…帰りに、駅のエスカレーターに乗っている時、妙な感覚が湧いてきた。
「あれ、高かったかな…マズかったかな…」と、実際に、私が思っていない”考え”が脳に湧いてきて、びっくりした。
脳内で、観音様ロングヘアの光秀さんが、顔赤くして、申し訳なさそうに笑ってた。
夫／父として、「桔梗柄の着物」が欲しかったらしいが…「気にしいクン」？
時折、彼は、「あ、こんな失礼な事言ってしまって！」と、バツ印のマスク付けて、黙ってしまう事があったし。
「そんな事ないよ。（着られないケド）珍しい買い物だったよ」と、脳内の光秀さんを慰めた覚えがある。
後で、脳内に（冬なのに！）モンダイの”青い夏銘仙”着たヒロコさん&洋装の光秀さんが、仲良く並んで現れてくれた。
（＊ちなみに…ボロ市で購入した着物と帯も、2月の、統合失調症・

急性期に、全て処分されました…）

ボロ市に話がいっちゃったな…「日光かまくら祭」に話は戻るとして。
ニュースになる位、この日の日光は、雪がしっかと降っていたらしい…で、脳内で”おみや”を貰った。
例の、「変に若い、内巻きボブ風＋オレンジ色の服の”私？”」の所に、白いセーター姿の光秀さんが来たのだ。
笑顔で、こちらの手の平に、ちっこい雪ダルマを乗せてくれた。
”オレンジの”は、目ェうるうるさせて、喜んでるようだった。
「…あ？？？、でもこれ、”冬〇ナ”ネタじゃ…（よう知らんが）」
と、”現実の私”がそう考え出したとき。
”光秀さん”は、イエヤス君の所に戻っていて、くつろいだ姿勢で、皆と飲んでいた。

うちのほう（関東中部）でも、冬の雲がぶ厚く、寒かった。妄想（と当時は気づかなかったが）の件もあり、
「今日、雪降るかもねー」と、周囲に話をふっていた。
降るわきゃ～ない。”彼”はあくまで、私の脳内の”妄想クン”の、おひとりだ。
現実に、うちのほうで雪が降ったのは、この二日後だった。

ボロ市の「桔梗柄の、青い夏銘仙」の着物の件だが。
なんかのひょうしに、急に「脳内画面」が、真っ暗になった。こういう事は初めてだった。
と、ちびっこい”細川幽斎氏（子ボーズ姿）が、すっごく嬉しそうに、逃げてった。
その後…ヒロコさんの横、ムリヤリ幽斎氏に「青い夏銘仙」着せられた光秀さんが、座り込んで途方に暮れていた。

この頃になると、幽斎氏、「子ボーズ姿」で、やたら動きが早くなったがー
以前、落ち込みまくった時、光秀さんが「観音様風ロングヘア&ピンクのベール」姿で、寄り添ってくれたのが忘れられない（？）らしい。
何故か、”バービーちゃん人形”を出し、「同じ髪型」に結い、ピンクのベール”だけ”まとわせて喜んでいた。
（びっくりした光秀さんが、パッと人形を取り上げて困っていたが。）
かと思うと、現実の私が、電卓叩いて”光秀さんの年齢ねぇ”とか考えていた時。
（細川幽斎氏に仕えてたのが４０代ってアリ？と悩んでいた。）
”光秀さんがネズミ年だとしたらー”と考えてたら、今度は、白いハムスター出してきて、ピンクのベール被せて喜んでいた。なに考えておるんじゃ？？
（＊いや…私自身も”考えて”これ出した訳でないんで…ドーパミンの作用が、わけ解らない…）

ハムスターも、光秀さんが慌てて、取り上げていた。

すっかり、ツルッパゲ姿で出るのが通常になった、幽斎氏。何故かこの時は”フルサイズ”なのだが。
人がひとりで（当然か…）風呂に浸かっていると、困った事に、脳内だと「ふたり並んで入浴」の図になる。
マンガ姿が、脳内に出るだけだが、とぼけた姿といえ、毎回困っていた。
「だからー、早よ向うに行ってくれ！！●でも見たかねーんだよッ！！」
向うも、”オバハンと一緒に入りたくない”と思ってただろうが…
これも、毎日のストレスのひとつになっていた。

連日…ヘトヘトだった。

連日というと、とにかく、細川幽斎氏が「細川家」に帰ってくれず、困り果てた。

（＊当然、妄想です…モノホンの”オバケ細川幽斎氏”が、我が家に来た事は一度も無いハズだ）

光秀さん同様ってワケでもなかろうが…”人と別れるのが、人一倍怖い”と言わんばかりだった。

「統合失調症」の産物の為か、セットがチャチなのは、毎度おなじみなのだが…

木製で、でーん、と「細川」と”彫ってある”大きな門が出て来た。

キラキラ輝いちゃってる。

その置くに、光寿院さん、伊也さん他、”細川家の皆さん”がそろっている。

光秀さんとの関係を改善した＝「”私”の役目はもう終わってるよね？帰ってくれないかな？」と、幽斎氏に伝えた。

ちっこい子ボーズの幽斎氏、イヤイヤをする。甘ったれてみせる。

「細川さんちのが、ごはん、ゼッタイ美味しいよ？」

納得する。（…）で、自宅に帰ってくれる事になった幽斎氏。

午前3時頃か。

砂糖菓子みたいな、カラフルで綺麗な光に包まれて、幽斎氏は帰っていった。

「…やっと、帰ってくれたね…」

私はホッとしてたが、脳内の「オレンジの娘」は、寂しがっって泣いていた…と、現実の私まで泣けてきた。

ところが、一日もたたず、「ただいまー！」と、笑顔全開でこっ

ちに走ってくる幽斎氏。
子ボーズ姿で、細川家に「ただいまー！」で、我が家（脳）にも「ただいまー！！」
これを、一秒単位でやってくれた。
すっごい勢いで、動き回ってくれた。ドーパミン様様である。
仕事中もやられた。怖さこそ無かったが、本当に、残業する体力気力は、全く無くなっていた。
一日平均3時間の、睡眠時間だったと思う。疲れて、眠たくて仕方ないのに。

あくまで、私の脳内での話だが。
徳川家康クンが、なんとか、恥ずかしがる光秀さんと、話をしようとしていた。
キャラとしちゃ、割と大人しいイエヤス君だ。
どうやってか知らんが、脳内で、私が”会談場所”をセッティングしたらしい。何故か洋室。どっかのホテルの一室かもしれない。ランプやベッドがあった。
そこで、光秀さんとイエヤス君が、並んでいた。
……と、遠くから「どぴゅーん！」と、ちびっこいモノが走ってくるのだ…幽斎氏だ。
家康クンの目の前でー光秀さんを連れてっちゃったのだ。やはりヤキモチかなんからしい（なんで又？）。
こん時が、一番、速度が早かったように思う。

別の時に出て来た、長宗我部元親氏（マンガ姿）が、偶然目撃して、驚いていた。
「なにっ、あのヒト（＝幽斎氏）そーだったの！？」と、こちらに食いついてきた。知らんわ。
”そーだった”かどーか、なんて、４００年以上後の私に解ろう

ハズもない。
ただ、もしかしたら、だが、潜在的に「藤孝（幽斎）＞光秀」という、主従関係は、残ってたかもなー、とも思う。
「兼見卿記」を、おおざっぱに読んだ感じでだが…
本当に、「山崎の合戦／坂本城落城」の４ヶ月後が、幽斎氏・初坂本入り、の保証はねーのだが。
（兼見氏自身が、必死だった時期で、イトコ幽斎氏の動向を逐一、日記に認めてる保証はないし）
だが、「４ヶ月後の坂本入り」で、細川幽斎氏が、なんらかのショックを受けてるようには、読めた。
　その後、ナニが進んだかというとー
ダンナ・一色義有氏を父兄で殺害した娘・伊也さんと…兼見ムスコの「縁組み」だった。
なにか、兼見氏が、落ち込んだ（？）幽斎氏に、めでたい事をあげてるような…なぐさめてる感が無くもない。

　私の脳内で、幽斎氏得意の「和歌」が出てくる事は、ほとんど無かった。
豊臣秀吉氏を喜ばせたらしい、「青のりにくるまれた豆＝コケのむす豆」といふの、ダジャレ？
「今なら、”苔の～”だけで通じるな」
そう言っていた、脳内の細川幽斎氏。
この時くらいだろうか？”文化人ぽく”見えたのは。

奇行？の数々

（＊こんなんばっかだと、「なに？楽しそうじゃん」と、思われそうですが。
統合失調症「急性期」には…ひっきりなし、「人々を大量殺戮する自分の妄想」「自分の首を刀で切りおとす妄想」が続きました。エンドレスです。
ドラの音みたいなので、場面は切り替わるんですが…エンドレスでした。
仕事中、（たまたま同姓の）「戦国武将○○が許せない、殺せ」「一族皆殺しだ」と、四方八方から、妄想達に責められる状態になりました。
頭で「ありえない」と思っててても、現実に、アクティブに妄想が湧いて来て、支配されてる状態になりました。
食べられない、水も飲ませてもらえない、この色のものを触るな、眠るな…ですネ。
この時は、ハタから見ても相当、ヘンだったようです。先輩がビタミン剤をくれました。
○階に行け、ついでに飛び降りろ、とか…ドーパミン様様です。
人を傷つける事態にならず、本当に良かったです。

統合失調症・前駆期の時期から、活字に抵抗が出てきてましたが。
最終的には、ニュースもドラマもダメになりました。
Ｈ２２年１月に起きた、ハイチの地震も、数日たってから知る、というマヌケぶりでした。ほとんど”現実を受け付けなく”なりました。
知った後で…会社の給湯室に、＜ハイチの男性＞を名乗る妄想クン、まで現れました。
”私たちの苦しさは、あなた方には解らない”と、淡々と言われま

した。）

この頃（Ｈ２２年１月中旬）、すっかり、細川幽斎氏は、ちびっこい姿がメインになっていた。
そーだな…ケータイ絵文字の「笑顔」に耳つけると似てるかな？３等身で。
”表情”すべてが、絵文字なワケではないケド、なんか、好みの事があると、両目が白ハートになる。両手グーにして、「キャー？」と、左右に体を振ったりする。
（おメメが？？、というのは、ヒロコさんも時々やっていた。好きなピンクの着物とかがあると、喜んで、光秀さんに報告したり…）
子ボーズ・幽斎氏、いろいろと＜小芸＞も増やしていった。
ムスコ細川忠興クンよろしく、脳内画面下部に、頭を、上半分だけ出してみせる。
その状態で、ニッコニコする。”脳内で”頭を撫でてあげると、頭をピカッと光らせて（笑）喜ぶのだ。
しかも、「顔上半分」で、遊び始めた。
顔上半分「だけ」増殖させて、テトリス、インベーダーゲーム（古っ！）を、ヒトの脳内で展開しはじめた。
機嫌がいいと、瞬時に着替えたりもしてたし。

光寿院さん、ヒロコさん他、女性陣は、相変わらず、着物ブームだった。
それに便乗したらしいのだが…
勝手に、「アンティーク着物&小物”愛光庵”」なる店を、ヒトの脳内にオープンしてしまった。
（”光”の字に、意味があるらしいのだが…）
「センス悪いよ、もっと若い人向けの名前なかったの？」と言うても聞きゃしねー。
しかも、別に店舗はどーでもよくて、ＣＭに力を注いでいるようだ

った、某焼酎のＣＭをパクっていた。
仕事中とかに、「愛光庵ニュースっ！！」と、ＣＭ入れてくるのだ。
世界でただひとり、私の脳内に。

そういえば、うちの妄想”細川幽斎氏”は、「おでん」が好きらしい。
マジメな話なら、安土・桃山時代の「ねりもの」なんて、高級品の類いじゃねーかと思うが…あくまでネタは、”現代の妄想クン”だ。
ヘンな話だ。私はおでんが、かなり苦手だ。
実母の「おでん」が、子供の頃からキョーフの対象だった。安いちくわとかを、醤油で煮たものでしかないのだ。大根とかも入ってないのだ。
しかし、当時”オバケ？”と思ってた。子ボーズ・幽斎氏が「おでーん？」と、食べたがる。
仕事で、残業が多かったので、帰りに材料を買い、早朝、ちゃんと大根も入った「おでん」の下ごしらえをしていた。
と、急に、脳内で「チャカポコ♪」といった音楽が流れて来て、面食らった。
びっくらした。
なんと、「一休さん（古いアニメ）」の主題歌だったのだ。
脳内で、幽斎氏が喜んで、再生してたらしい。

「どーしたの？確かおでん、嫌いじゃなかったっけ？」
会社の先輩がツッコんできた。私が、コンビニおでんを昼飯にしてるのが珍しかったのだ。
「え？ハハ…ダイエットにいいかと…」
年末近かったと思う。”わんわん泣かれてた頃”だ。
「仕事手伝ってくれてるし（？）」と、ごほうび代わりに、昼飯を何度か、おでんにしていた。

かと思うと、「カレーとか、辛い物が苦手！」で、嫌がった。
仕事で、体力気力の落ちた時、私にとっちゃカレーは「栄養剤」だったのだが…食えなくなってしまった。

そういえば、「仕事」以外でも、”わんわん泣かれた”事があった。
「光秀のことを密かに詠んだ（？？）」と名指しのあった、「御教戒の御歌」の3首だ。
薬を飲んでいる今でこそ、大丈夫だが…一時期はひどかった。
いつ、どこで文庫「細川幽斎』を読んでも”脳内の幽斎氏が泣き出す”＝”私が泣き出す”。
実験してみた。新型インフルエンザの流行時期だったと思うが、１０回試して、１０回とも泣き出したのだ。
「マスクしてりゃ目立たないだろう」と、たかをくくって、電車内で読んでみた…
”わんわん状態”になってしまった。本閉じて、ホームに立っているだけで、涙が止まらない状態が続いた。

ほかに、なんかあったかなぁ～、
ああそうだ、これは、”チビッコ幽斎”だけではなかったが…
途中から、”妄想キャラ全員”に、白い羽根が生えてきちまった。
織田信長氏にまでだ。
丁度、ハイチの地震の後だった。
私は、仕事の関係で、東京都中央区の「鉄砲洲」にゆく事が多かった。この時もそうだった。
鉄砲洲…東京都内での、細川家関連スポットのひとつに数えてよい所と思うが。
（ここの神社を通る度、”光秀との事を祈って～！！と、よく、幽斎氏にねだられた）
この日、ハイチの地震から数日たっていた日だが。

頭の中で、なにかスイッチが入れ替わり、周囲が”マンガ状態”になり…3等身の天使たち?が、ハイチにむけて集団で飛び去ってく図が、脳内に現れた。
私自身の分身?まで、むこうで、生霊?が、丸太かかえてる画像が、脳内に現れた。

これなら大丈夫かな…?”現代の方の妄想”の一例として。
近年、お亡くなりになられた、ロングヘアの有名女性が、”妄想クン”として、登場してきた。
ハイチ他、のボランティアにも、参加されていた。
酒豪で、夜中、どこぞの墓地で、現地?の霊さん方と宴会を始めて、座り込んで焼きそばを食べてらした。
すごい酒豪で、まわりの霊さん方（ジンジャーマンに、私には見えたが…）が、生け垣に突っ込んで伸びてるのに、平気だった。
出てこられたのは、２０代の頃の美しいお姿で、森乱クンが「おねーさま！」と、受けていた。

子ボーズ・幽斎氏は、ちびっこい姿を利用して、現代美女達（の妄想クン）に可愛がられようと目論むが、すぐ放り出されていた。
セクハラするので見捨てられるらしい。
（＊このイメージは、どっから来たのやら…本物の武将・細川幽斎氏と、真逆のキャラですよね…?）

かと思うと、急に、怒ると”成人（大人ボーズ姿）に戻る。
「つるぎちゃ～ん?」と呼ぶのから一転、「おいつるぎ！！」となる。声からして違ってたし。

買い物に行った時…ついてきた。（というか、常に脳内にいるワケだが…）
冬だったので、ビタミン補給に「みかん」を選んでいた。店にあっ

たのは、静岡、和歌山産だけだった。
と…おごそかな声で、細川幽斎氏、ひとこと。
「みかんは、熊本だ！！」
私、ハタから見たらコワいヤツでしょうが…笑えた。

足利義昭氏（最後の室町幕府将軍／幽斎氏のモト上司で、異母弟）も出て来た。
なぜか、やはりちびっこい姿で、”いかにも将軍”な、束帯姿だった。
ーと、細川幽斎氏が、嫌がる。
いや、現実に、幽斎（節孝）＆義昭の間は、いろっいろ、あったと思うが……
”オレンジの娘”（私の分身らしき妄想）が、義昭氏に近づくのも、声かけるのもダメ。
（私自身が動かしてる訳ではなかったが）オレンジのは、”かわいそう”とでも思って、チビッコ義昭将軍に近づこうとしとるらしいのだが。
二十歳位の女が、小学生の面倒みようとしてるようなモンだ。
と、（統合失調症だからだろうか…？）
「浮気するな！」と、デカイ幽斎ポーズに怒鳴られるのだ（イミ不明）。
「浮気（↑光秀さんか？）しかしてねーじゃねーかおめーは！！」
と、”オレンジの娘”……

”オレンジの娘”にまで、羽根が生えちまった…最悪だ。彼女は別に、話？に関係したキャラでないのでどーでもいいのだが、ひとつだけ関連ネタを。
一度、冷凍食品のホタテを買って来た。料理を作ろうとしたのだ。
朝5時位の忙しいときだ。
ところが、料理中、妙な映像が脳内に湧いてきた。

海中、ケムリ上げて飛び泳ぐ、生のホタテだ。
”ホタテが可哀想！！”と…若い女の声がした。低い私の声ではなく、”アニメ声”ってやつだ。
脳内で、身を震わせて涙する、マンガ風の”オレンジの娘”がーほんとに妙な病気だ。
冗談ヌキで、しばらくホタテが食べられなくなった。”泳ぐ”映像がちらつくのだ。
他の貝類は、平気で食べるくせに、ホタテだけダメになっちまったのだ。実は今も、思い出すと微妙な気分になる。

そういえば、”○ＨＫドラマ＜つばさ＞”の件がありましたな。
私は、Ｈ２１年年末の、ダイジェスト放送しか観ていない人間だったが、これが、かなり妙な筋書きに見えたのだ。病気で。
主役女性”つばさ”ちゃんに張り付くラジオ？”天使のおじさん”（イッセー尾形氏）を観て、脳内の幽斎氏が”これが自分だ～！！”と指さすのだ。
「ほら、こうやって、お前（？）を間近で人知れず指導してるんだぞ！同じように羽根が生えてるだろう！！」
ボーズ姿に、白い羽根生やしたヘンな人物は、ＴＶを観て、悦に入っていた。
主役女性は２０代と思う。オバハンと一緒にするのは失礼な話だ。しかも、甘玉堂のおとうさん（中村梅雀氏）まで、「自分だ！！」と言い出した。
「どっかいっちゃった＝光秀さんに、あんな形で死なれ、死後、迷ってしまった」
「また戻ってきた＝ジャン！！関係ふっかーつ！！」
て事は、おかあさん（高畑淳子さん）が、光秀さんと言いたかったのだろうか？どんなドラマだよ？？
「○ＨＫのドラマ制作に、陰で、勝手に乱入した。全国ネットで宣伝してやったぞ！！」…だから何を？？

私は、元々、ドラマは観ないほうだが…
病気といえ…統合失調症といえ…
こーんな、妙なアイコンだの、歴史的新事実だの盛り込んだ（ことになっとる）”朝の連ドラ”観たの、初めてだよ……

もなかの月

９３年頃の総理”細川護熙氏”を追いつめた、自民党の急先鋒だった人物が、ＴＶにでて、コメントをされていた。
”細川さんは、お気の毒だった”と、当の”やってた本人”がおっしゃるのだ。
この方は、”それが（自民党での）自分の役割だったから”こなしただけだという。
「お気の毒」発言、決して外面だけでなく、御本心からの言葉のようだった。

”本能寺の変”の後、幾つかの寺に”信長様供養”の名目で、多額の銀子を渡したという、明智光秀氏。
かならずしも、金品で自分を認めさせようとした訳ではないのではないかな？
信長父子を”天下の悪虐”と言わなければならない程、追いつめられた。
好きで起こした”謀反”ではなくー”イジメ”ではない別の、重大な要因で”殺さなければ止められない”と、思い詰めてしまったのでは、と思う。

流血の事態にならない、現在の政治家同士だったら「信長&光秀」、ああはならなかったんでないかな。
ま、私は歴史に詳しくねーので、読み流して頂きたいが。
安土・桃山当時は、現代と比べ物にならない位、命がかるく扱われていた。
「本願寺攻め」なんかも凄まじいが、通常の戦闘なんかでも、「死者」も凄いが…大量の「人買いに渡される人達」もいたそうである。
それが、兵士の給料がわりになった、と、ものの本に載っておった。

また、合戦が、農作物のとれぬ時期によく起きた地域もある、というのだ。民の”飢え””収入”がからんでいるのだろうか？
ミリョクもあろうが、私はあまり、戦国時代に憧れない。

慶長５年（１６１０年）の、田辺籠城の”開城”だがー
細川幽斎は、後陽成天皇の、２度の開城命令をムシして、籠城戦を続けていた。
「幽斎の城」を攻撃した側には…幽斎の和歌の弟子もいたという。
殺し合いしてる、といっても、憎み合ってるとは限らんのが、戦国の世なんだろふか？

幽斎氏、「古今和歌集」伝授を、八条宮智仁親王に済ませてから、一族郎党集結し、田辺城で籠城をはじめた。
死ぬ覚悟してた、という事に…なるんだろう。
ところが、生き残った。
後に、徳川家康氏からの「ごほうび」を辞退し、六千石の領地を貰ったのは「生き残った」ことを恥じた、という説もあるが。
どうなのだろう？彼の立場は「勝ち組」といえ、敗将にはちがいないが。
Ｈ２１年１２月。
何気なく、本屋に立ち寄った。
…と、なんか、脳内の子ボーズ・幽斎氏がはしゃぐ。
よくある、薄い冊子が平積みされていた。「丹波／丹後地域」の特集本らしい。これが嬉しかったようなのだ。
福知山城（光秀さんが建てた城）も載っていた。買おうと決めたが、その場でパラパラ見ていた。
「田辺城」も載っていた。で、デカデカ「細川幽斎肖像画」ものってやがる。
「古今伝授」の記事も細かく掲載されていた。
ちびっこい脳内の”幽斎氏”、うれしそーに一言。

「死ぬカクゴしてたんだよ～♪」
統合失調症で、自殺まがいの行為に至った私は…どう返事してよいものか、迷った。

そういえば、「幽斎氏肖像画」、同じよーな画が二枚あることを、「細川の至宝」展ではじめて知った。
へんだなー、とは思っていたのだが…片方、やや若くカッコ良さ目に描かれているのだ。見る度、印象が違うのはそのせいか？
どちらも、お亡くなりになってからの作らしいが。

うちに出てくる、妄想の”幽斎氏”は、ルックスに自信がなさそうだ。
人の外見は、色々言うくせに。
で、明智光秀さんの事になると、おめめが？？になる…（悩）。
私は、こんなキャラづけした覚えないのだが…今でも正直、細川幽斎ファンではないし。

統合失調症の症状悪化で、大量の”妄想クン”が出て来た頃、もう、”戦国時代の人達”は、少数派になって、エピソードも減ってきた。
（＊というか、ここに出しづらいネタが増えました…）
が、急性期を過ぎて、現在、よく出てくるのは、幽斎・光秀両氏（しかも3等身）だけだ。
まれ～に、ヒロコさんとかが顔をだすが、皆、かなり”遠まき”な感じになった。

笑かせてくれても、現在無害でも、いつ＜ストレス他＞で脅す存在になるかわからない。
ただ、妄想クン達、薬でコントロール可能、というので、薬をマジメに飲んで、ムリしなければ安全らしい。

だが…どうなのだ？でてきたキャラクターの性格他、は、＜私のボキャブラ＞なのか…？？？
それも、相当モンダイな気がするのだがーどーなのだろふか？？

Ｈ２１年１２月。
友人から「ニコちゃん顔（チビ幽斎に似てる！）」の、みそ汁最中を戴いた。
私は、母に「お昼にひとつ食べていい」と伝えて、外出した。
「味噌汁！！」と念を押したのだがー
帰宅したら、母が「しょっぱかった！！」とクレームをつけてきた。
きちんと言ったのに、「ただのもなか」と思って…丸ごと食べてしまったというのだ。

後で、ちびっこい幽斎氏が、脳内に現れた。
「もなか」を、”母に取り憑いて食べた”のは自分だ、という。
「あんこが恋しかったの（ｂｙ幽斎）」とか。
翌日、もなかではないが、あん入り和菓子を探して買って帰り、母と、枕元に、抹茶付きでお供えした。

結構、”妄想クン達”に振り回されて購入したものは多かった。
ここに出した以外でも、数着、着物を購入している（で、着ないうちに処分された）。
”根付”（帯に付けるアクセサリー）を、女性キャラごとに作らされたりした。数日に渡ってだ。
デザインの指示が、妄想と思えぬほど細かかった。今でも処分に困って、持っている。
細川幽斎氏も、アクセサリー店を通る度、「九曜紋」形のアクセはねーか探して、欲しがってた。

Ｈ２２年５月…まだ、仕事復帰出来ず、自宅療養中だった。
斎藤美奈子さんの本を読んでいた。
金がないし、いくら自由でも、働いている同僚に申し訳なく、遊ぶ気になれなかった。
読んでいたのは、おなつかしや、渡辺淳一氏の「失楽園」のページだった。
斎藤さんの、キレのよい文書で、「失楽園」場面がダイジェストになってゆくのが面白い。
…と、ふと、「梅の花柄の着物」の文字が飛び込んで来た。
急に、観音様風ロングヘアの”光秀さん”が、「ダメ～！！」と、大アップで出てきた。
「へ？」と思った。
脳内で、真っ赤になってる、何事かと思った。
どうも、奥様・ヒロコさん（の妄想）の好きな「梅柄の着物」という文字、こんなエロい形で見たくない、らしい。
「よ…読まないほうがいい？笑える文なんだけど…止めとく？」
脳内の光秀さん、真っ赤なまま、口に「×」マークのマスク（クイズ番組のダメ回答者みたいなの）を付けて、黙ってしまった。
”申し訳ない事言ってしまった”と、反省されとるらしい。「気にしぃクン」？
ところが、彼を押しのけて、「読みたーい！！」と、丸いモンが出てきた。
３等身の子ボーズ・（妄想の）細川幽斎氏だ。
仮にも、清和源氏ゆかりの…といふか、室町幕府高官だった人物が、こんなカルい訳ないのに…私の性格だってこんなんじゃない。何故こうなったのやら…
「光秀に…むぐ」
幽斎氏、更に赤くなった光秀さんに、口を押さえられていた。
資料類とともに処分された「へうげもの」を一部、購入し直して

いる。
本当に久しぶりに、読み返していた。
（妄想とは全く別物の）光秀さんも、幽斎氏も出ている巻だった。
治療が進んでいたためか、「読んでで邪魔される」ような事は無くなっていたが。
脳内に急に（妄想のほうの）フルサイズの細川幽斎氏が出て来た。
ついで、驚いてる明智光秀さんもだ。
幽斎氏、笑顔で、自分と光秀さんを”荒縄”でしばってみせたのだ。
”はなすまい”というイミらしかった。
「”坊さん”と”観音様”なら、お似合いだろ？」と、幽斎氏に笑顔で質問された。
「さ…さあ…どーだろ…？」
変な話だが、脳内の子ボーズ、幽斎氏、顔をひっぱるとよく伸びる。で、笑ってる。丸モチみてーだ。
現在も、私の中にいる妄想クン、「細川幽斎」とは無関係なので、病院の先生にならい、
「子ボーズ」ないしは「丸モチ君」とでも呼ぼうか？
「明智光秀」さんへの命名は、「気にしぃ君」だ。

もなかの月（後書き）

読んで下さった方、有難うございます。
病気で「十兵衛さん」の原稿をビリビリにしてしまい、代わりに、
言い訳として書かせていただきました。
読んで下さった方もいた「十兵衛」も、再開できたら良いのですが。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3602m/

細川幽斎と明智光秀、戦国美女たち

2010年10月25日13時25分発行